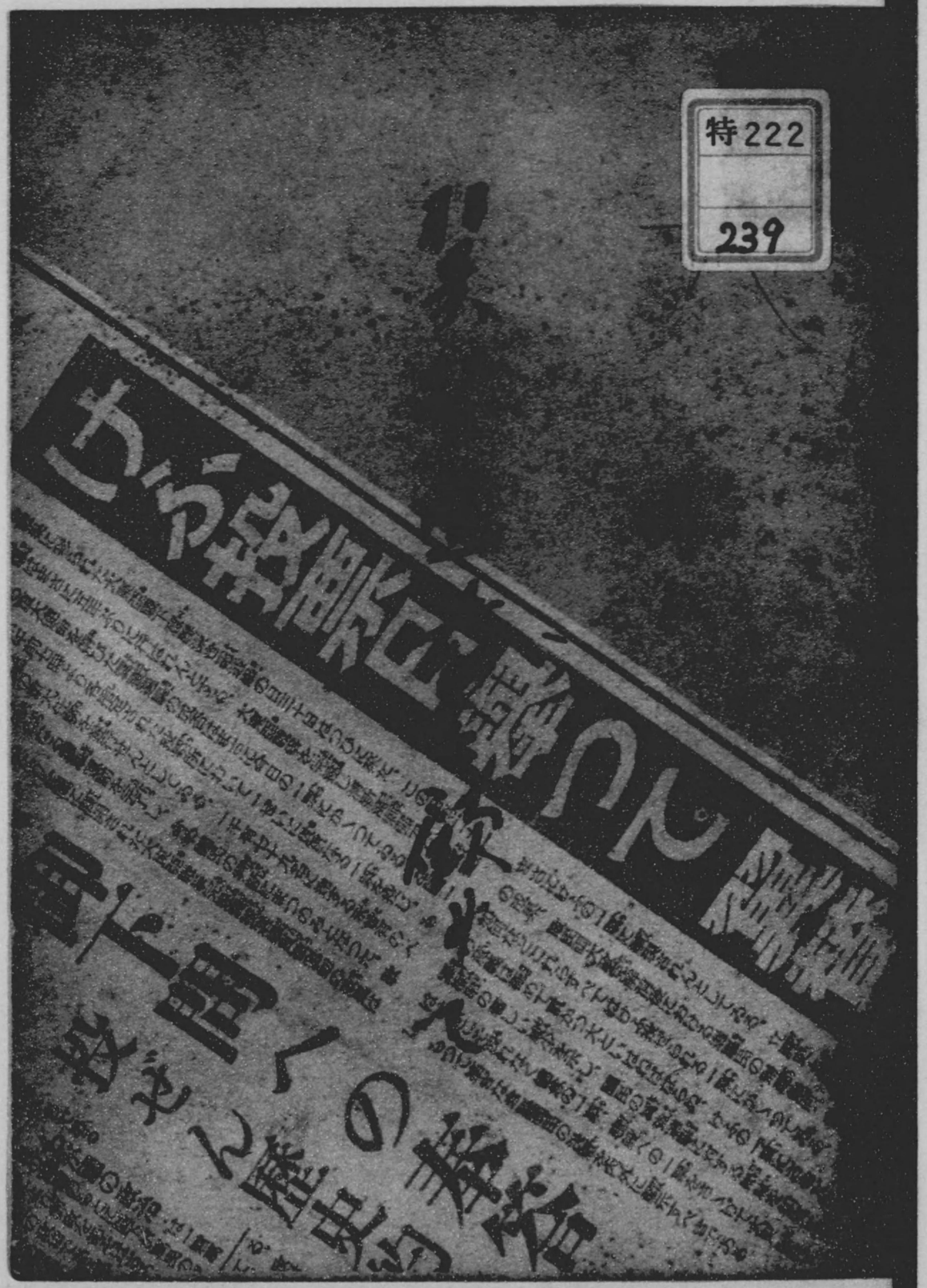


0006303000

0006303-000

特２２２－２３９

翼賛選挙を顧みて

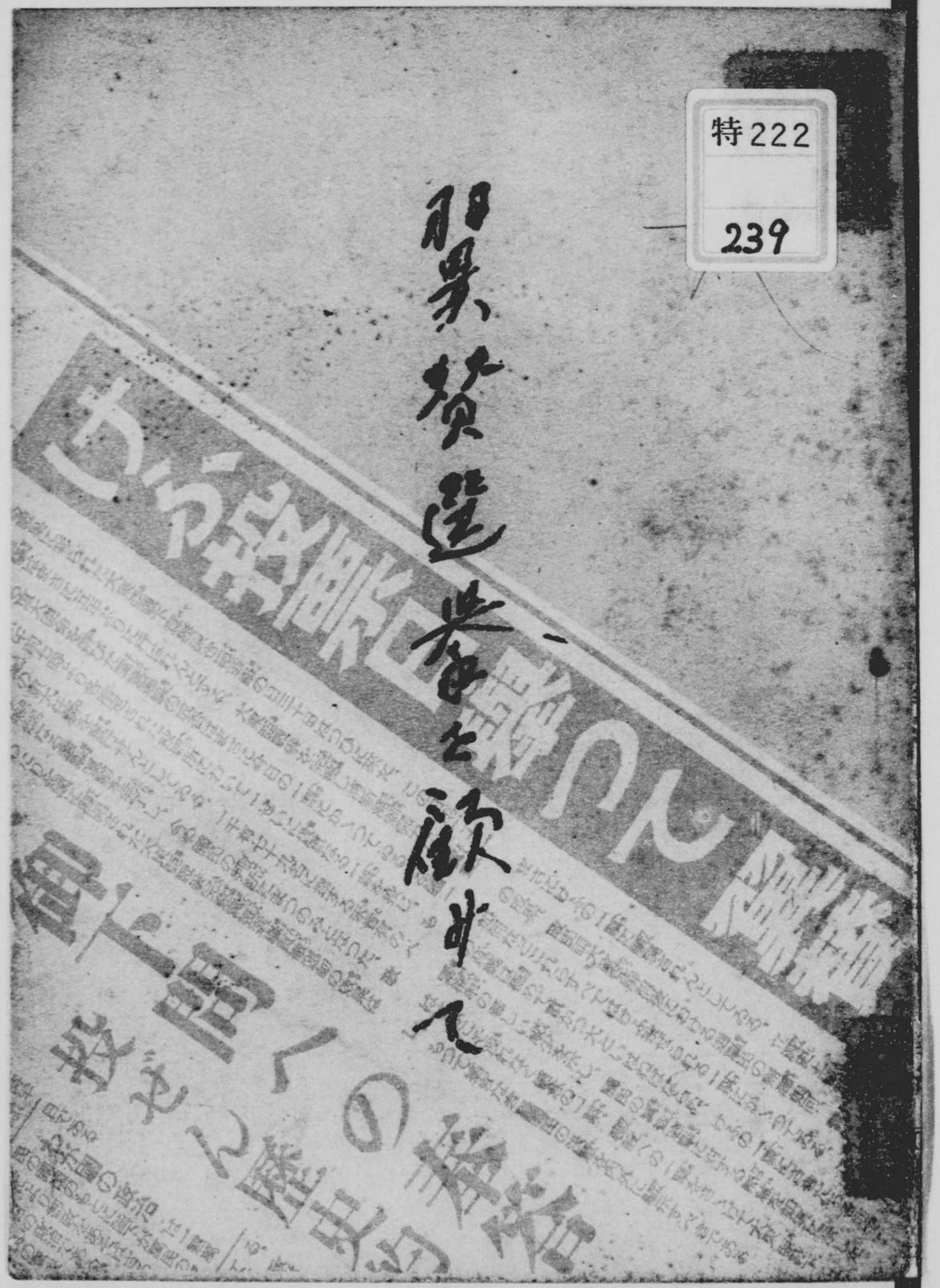
翼賛政治体制協議会大阪府支部・編

楠野泰夫

昭和１７

ABE

特222
239



特222
239

昭和十七年

翼賛選挙を顧みて

元
翼賛政治體制協議會大阪府支部編

綱敬之新大道

蘭齋正恒題

翼協本部會長　阿部信行氏

元翼協大阪府支部長　小倉正恒氏

翼協大阪府支部長　佐多愛彦氏

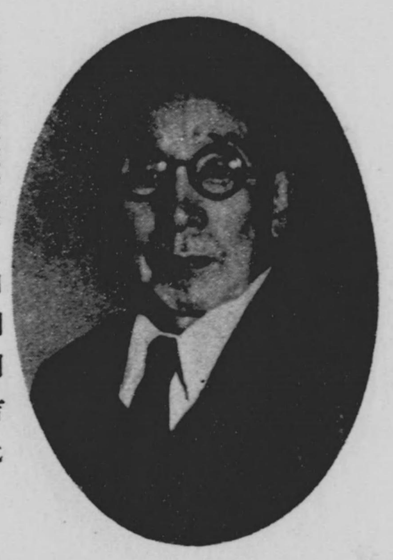
翼協大阪府支部幹事

磯村彌右衛門氏

小畑源之助氏

種田虎雄氏

森平兵衛氏



翼協大阪府支部幹事長　白川朋吉氏

同支部事務次長　江村至身氏

同支部事務長　楠野泰夫氏

翼協大阪府支部會員

岡田永太郎氏

石倉小三郎氏

種田健藏氏

川畑清藏氏

蒲田利郎氏

翼協大阪府支部會員

久保田權四郎氏

片岡安氏

成瀨達氏

由上治三郎氏

堀啓次郎氏

大阪府第一區當選代議士（○印推薦）

○田万清臣氏

○川上胤三氏

一松定吉氏

大阪府第二區當選代議士（○印推薦）

○田中藤作氏

○山本芳治氏

○紫安新九郎氏

大阪府第三區當選代議士（○印推薦）

高梨乙松氏

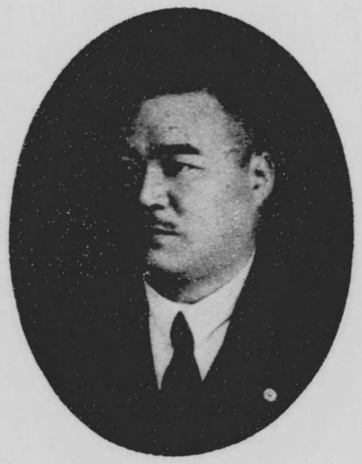
○池崎忠孝氏

○山野平一氏

○上田孝吉氏

大阪府第四區當選代議士（○印推薦）

○菅野和太郎氏



○大川光三氏

西尾末廣氏

○吉川吉郎兵衛氏

大阪府第五區當選代議士（○印推薦）

○勝田永吉氏

○大倉三郎氏

笹川良一氏

○杉山元治郎氏

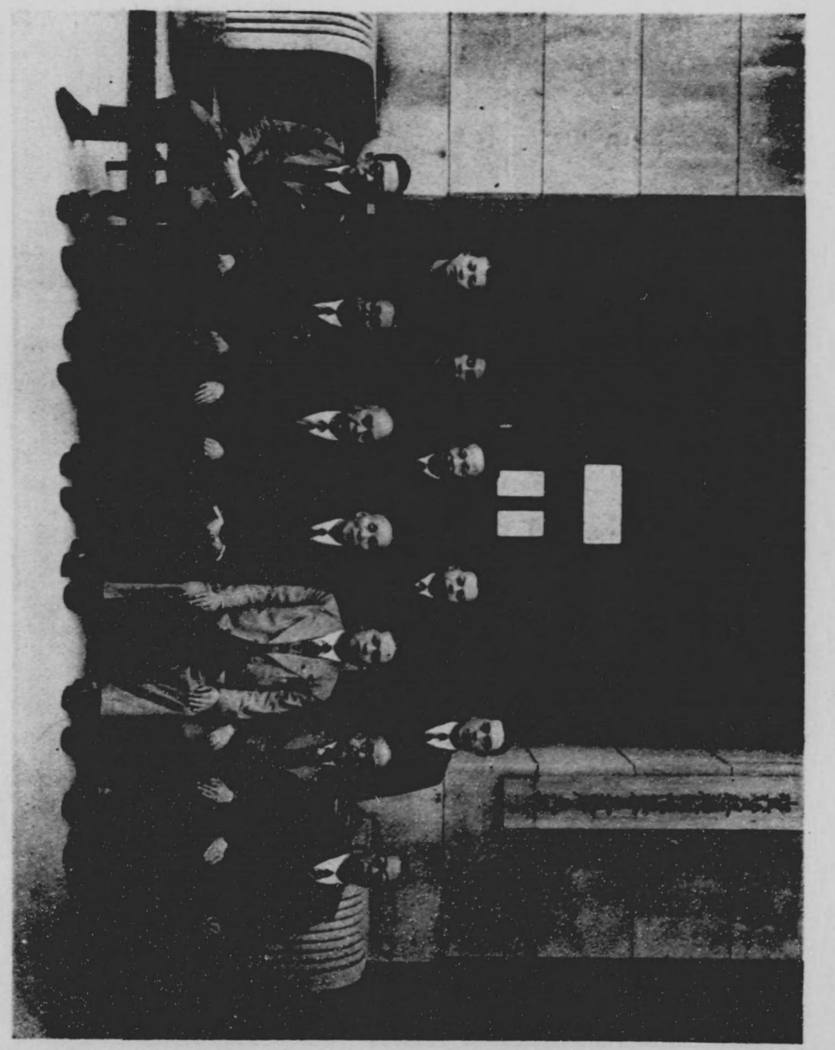
大阪府第六區當選代議士（○印推薦）

○河盛安之介氏

○松田竹千代氏

○井阪豊光氏

429
193



前列向て左より
山本久七氏 楠野泰夫氏 佐多愛彦氏 白川朋吉氏 江村亀身氏 小西政治郎氏 金内國之助氏
後列向て左より 小笠原武雄氏 大下修三氏 高岡幸氏 井上約吉氏 西羅友和氏

選擧大阪府支部事務局

序

大東亞戰爭の眞ツ只中、翼贊議會の設立を目ざしての歴史的選擧戰は帝國議會創始以來最初の候補者推薦制と云ふ劃期的方法に依つて斷行せられた。之れが結果は全日本の國民總力の結集を表象するものとして將又、將來日本の政治的動向を左右する重大意義を有するものとして國民一億は素より全世界注視の下に戰は進められた。此息づまる樣な翼圍氣の中に翼贊政治體制協議會は結成せられ全國的運動が展開せられた。此の意義ある選擧に於ける大大阪の戰跡こそは將來選擧の總ゆる面に多々の示唆を與ふるものであつて、選擧終了と共に、何等の跡を殘さずに其儘葬り去るには余りにも惜しい樣な氣持がする。幸に

して私は此の光榮ある記念すべき事務の末席を汚した關係上、關係各位の御諒解を得エ思出のよすがにもと其一端を輯錄して茲に印刷に附する事としたのである。

元より理屈抜きの輕い氣持で雜然と當時の出來事を拾ひ蒐めたのに過ぎないのであつて、特に格別の參考とすべき程のものでない事は勿論であるが、此の小冊を通じてありし日の翼協大阪府支部の戰の跡を偲ぶと共に、日本政治新體制前進の一過程には其下積に如斯き動きもあつたと云ふ事を記錄せんとするに外ならないのである。

昭和十七年初秋

楠野泰夫

目次

一、表紙・扉　翼協大阪府支部幹事長　白川朋吉氏筆
一、題字　元翼協大阪府支部長　小倉正恒閣下筆
一、翼協會長と府支部中樞部並に當選代議士近影及府支部事務局員
一、序文
一、翼協の使命と推薦制の意義（阿部會長の挨拶）……一
一、戰ひの跡を顧みて　翼協大阪府支部事務長　楠野泰夫……六
一、推薦選擧に參劃して　翼協大阪府支部事務次長　江村至身……一一
一、翼贊政治體制協議會の誕生……一五
　運動基本要綱
　各界代表を招請
　協議會會則
　首相の挨拶
　阿部元首相を會長に推戴
　翼協本部設置

支部結成委員と推薦候補者銓衡委員
一、翼協大阪府支部の發足……二六
支部長と支部役員
小倉支部長式辭
府支部規約
事務局構成
推薦候補者決定總會
最後の選擧對策總會
推薦候補者と懇談會
一、府支部の生活々動……四〇
準備期　候補者銓衡時代（銓衡基準及内申數、銓衡内示、支部長報告）
第一期　候補者陣容整備時代（文書關係、演説關係）
第二期　言論戰時代
第三期　白熱最高潮時代
支部結成式を擧行
支部の陣容整ふ
擧　明
支部幹事會と會員總會
推薦候補者發表
推薦候補者へ配布文書
閉幕期　戰塵整理時代
一、翼協支部解散と佐多支部長の聲明……四九
一、支部の大言論戰詳報……五一
銃戰陣地へ突撃戰（各區に於ける推薦演説會）
本部派遣情勢視察員の活動
推薦候補者應援幹旋
一、輝く翼選の成果（各區の當選者と次點者）……五九
一、榮ある當選者二十一名……六四
一、各種統計表……七〇
當選者の選擧費用
各區有權者、棄權、無效、有効票數
各候補者の演説會場、聽衆人員數
郡市區別得票數
一、翼贊選擧の歌……八二
挿入の寫眞その他
阿部本部會長の凱歌
紙芝居
聽衆入る大會衆
翼選塔
一票行使の誇り
擧證を通じて
無言の翼選戰士街々のポスター
その他

翼協の使命と推薦制の意義

—阿部會長の支部長會議に於ける挨拶—

翼賛政治體制協議會々長阿部信行大將は、協議會の使命と推薦制の意義について次の如く述べた。（三月二十二日の同會支部長會議に於て）

今回政府の總選擧對策に呼應し翼賛議會確立のため翼賛政治體制協議會の成立を見、過日夫々會員の御委囑を申上げ本日全國支部長の御會同を得るに至りましたことは主催者と致しまして誠に欣快にたへませぬ。

御承知の如く衆議院議員總選擧は五年振りで今春四月末を期して實施されることになつてをりますが、總選擧が大東亞戰爭下に於て行はれますことは實に內外時局の飛躍的推移に鑑み重大意義をもつてゐると信じます。

即ち昨年總選擧を延期せる際は我國は支那事變を可及的速に解決することを主眼としてゐたのでありますが、其後大東亞戰爭の勃發を見るに至り事態は全く一變いたしました。我國は米英の挑戰を敢然破摧、之が大擊滅戰を展開するとともに進んで大東亞共榮圈建設の皇國理想に

邁進するに至つたのでありまして、かゝる時局の一大展開によつて國民は愈々その聖戰完遂の決意を固くし、その總力を結集してこの新段階に對應する覺悟を致さなければならぬのであります。

即ち戰時下特に總選擧が行はるゝ所以は實にこの時局の要請によりまして時局意識に徹した清新溌溂たる議會を期待するがためであります。

惟ふに憲法發布以來五十有餘年、この間總選擧の實施されたること二十回、而して今次第二十一回總選擧こそは我國が名實共に大東亞の盟主たる地位に立つた最初のものであり、其の點過去の總選擧にみられなかつた重大意義を有するものといはなければなりませぬ。

即ち政府は今次總選擧が舊套を一掃して公正明朗に行はれ、これによつて、大政翼贊の熱意に燃え、大東亞戰爭の目的完遂のために、積極的に力を致すべき、優秀有能の人材の一人でも多く選出せられんことを熱望してをるのであります。

かくして國民の胸中に漲る征戰目的完遂の意氣と氣魄が披瀝され、聖業翼贊の赤誠が表明され、官民一體となつて眞に翼贊政治の本領が發揮されることを衷心より希求してゐるのであります。

この意味から先般來、政府は大東亞戰爭完遂翼贊選擧貫徹運動を提唱したのでありますが、更に去る二月二十三日、東條首相は民間の我々三十三名を招致されまして翼贊議會確立に關する具體的方途について諮られたのであります。

今次總選擧の以上の意義に關し吾々は政府の意見と全く一致しましたので參集せる全員の合意により茲に本協議會の設立をみるに至つたのであります。

飜つて我國に於て新政治體制或は翼贊政治體制の確立が要望されて以來既に久しいものがあります。過般の政黨の自發的解消は、この要望の表現の一とみるべきであります。而してこれが機運は漸次熟しつゝ今日に至つたのでありますが、大東亞戰爭勃發以來急速にこの要望を實現するの切なるものあるを感ずるに至りました。

新政治體制は、とびはなれた理念のみによつて確立するものではありませぬ。議會制度の下に於て其の一要件として選擧といふ現實的過程を通じて可能となるのでありますが、同時に選擧を通じ國民の政治的理解を昂め之を正しき方向に結集することは、新政治體制確立の不可缺の條件であります。

さて、從來の選擧においては、立候補は屆出制であるため形式的には自由に立候補出來たのでありまして、或は實名的或は爲にする目的を以て立候補する者もある反面、あらゆる情實因緣の制約をうけ、從つて眞に實現を要請されるべき翼贊政治體制の確立を妨げてをつたことは

事實であります。

若し、こゝに立候補に關して何等かの方途が講ぜられ選擧民の信賴に於て投票が行はれ得るとしたならば國民の政治的理解とその正しき動向は必らずや昂揚され、清算されるものと思はれるのであります。

即ち翼贊政治體制協議會の創設はこの見地に立ち、廣く國家の求むる人材を銓衡し、推薦することを期するものであります。

推薦制は我國では全く新しき試みであるのではありませぬ。

地方議會については別として政黨の公認の如きは、それであります。然し乍ら本協議會の推薦は、一黨一派、一地方、一職域に「限定」されることなき擧國奉公の機構をもつものであつて、この點帝國議會開會以來はじめての試みとして全く劃期的のものでありまして、之を以て皇國獨自の翼贊議會の確立を招來し得べきであると信ずるのであります。

從て此の試みの成否は我國政治の今後の動向にも重大なる影響を及ぼすものであると申さなければなりません。

本協議會と致しましては清新有爲の人材を愼重に銓衡し、之を旺溢せる國民の忠誠愛國の熱情に訴へてその當選を期することに運動の重點をおいたものであります。

各位には國家の求むる清新有爲の人材を一人でも多く議會に選出し以て東亞百年の大計に翼贊し奉るべき事は全國民に課せられたる一大責務に鑑みられ本運動の意義と效果と御了得下されて至短時日の間に支部の結成に次ぐに銓衡其他幾多の御仕事を御引受け下さる御勞苦に對しては重々御察し申上げますが、特に絶大の御協力を御願ひする次第であります。

戰ひの跡を顧みて

翼賛政治體制協議會
大阪府支部事務長　楠野泰夫

第二次近衛内閣に依り決定せられたる基本國策要綱は、其重要綱目に新政治體制の構想を發表して以來之れが一翼清新強力なる翼賛議會の確立就中衆議院革新の機運は澎湃として天下を風靡するに至つた。此の秋昭和十六年十二月八日、畏くも大詔を拜して以來の我國は大東亞戰爭完遂の爲愈々國民の總力を集結し國を擧げて征戰を戰ひ抜く鐵石の體制を強化するの現實に當面したのである。

昨年任期の到來したる衆議院其他の地方議會は國際時局の逼迫に依り其の任期を延長せられたが、本年に至つて更に其の重大性を倍加した時局下戰爭の眞只中に於て敢て衆議院議員の總選擧を斷行せざるを得ない事態となつた、「戰爭下の總選擧」「政黨解消後始めての總選擧」は果して如何なる貌に於て新政治體制の構想を生かし來るのであらうか、國民一億は元より全世界の關心は敵も味方も總べて此一點に集中せられつゝあつたのである。

政府は翼賛選擧貫徹運動を提唱すると共に民間各層の代表を招致し之れが具體的研究工夫を倚托して以來、翼賛政治體制協議會の誕生となり、全國各地域に展開せられたる翼協支部の結成と其の運動の經緯は、此處に改めて私の繰返す迄もない處である。翼協に依つて採り上げられた帝國議會創始以來最初の劃期的方法たる候補者推薦制に依る選擧其れは果して現行法規の下完全無缺のものなりや否や、其の成果は果して如何、翼協が政府の運命を掛けたる此新形式に依る選擧は社會各層に嵐の如き反響と批判を捲き起したと共に其の結果に對しては全世界の視聽を集めたのも又當然の成行であつたのである。

此の緊張氣の中に翼協大阪府支部は小倉正恒閣下を支部長として（後に佐多愛彦先生と更替せらる）各界の精鋭十七氏を會員に三月二十一日匆卒の間に結成せられた。此の劃期的總選擧然かも全日本に於ける代表的大選擧區として特殊的指導地位を持つ經濟都大阪の戰績は恐らく今次選擧の成否を決する水嶺であり關ケ原である。支部長以下會員の之れに對する責任感之れに伴ふ心勞は蓋し想像以上のものがあつた。

產業都大阪の選良として推薦するには少くとも大大阪の持つ特殊性を生かすに相應はしき人材である一面、當時の一大氣運であつた新人待望の國民的輿望に副ふ清新味を漂はすの必要あり、さりとて全然地盤關係をも無視する能はざる現實の惱みと、更に加ふるに極めて局限せられたる短時間の間に之れが決定を爲すの必要に迫られて居つた當時の實情は、此の理想と現實

との調和而して一般大衆の輿望に答ふる時局的影響、或は將來推薦制に對する批判の對象として採り上げらるゝ事あるべき指導性、之等を綜合したる上の候補者銓衡が如何に至難にして且つ決斷を要するものなるかは、眞に其局に當りたる者に非ざれば體得する事を得ざる豫想外の苦心事であつた。

共の後に起つた現行法規の下に於ける積極的第三者運動も亦今次選擧の特異性として多分の難しさと煩はしさのあつた事は否む事の出來ない事實であるが、私は推薦制度に依る選擧の成否は、繫つて候補者銓衡の如何に存するものなる事を段々と體驗する事が出來たのである。

決定發表せられたる候補者の顏觸に對しては、共の後世上兎角の批判も行はれたが、支部長以下支部の會員各位が連日會合に或は個別的に九十名に近い豫想候補者の個々に付て總ゆる角度から、檢討審議せられたる結果の上に現はされたる候補者に付ては、共の審議經過を眼前にして居る私としては現選擧界の實相よりして先づ現段階に於ては共の最善を盡したるものとして滿足するの外はないと確信する。只私個人の氣持を率直に披瀝する事が許さるゝならば、大阪の特殊性を强く表現する意味に於ける財界代表の奮起を得られなかつた事は返すゝゝも殘念に思はれてならないのであるが之れと共に今次の選擧を契機として、將來何等かの機會に共希望が滿されるゝかの如き胎動が、既に指導層の一部に育まれつゝある形勢を看取し得る事に、大いなる慰めを感じて居るのである。

府支部の對外的活動としては、從來の政黨時代に於ける公認候補者に對するが如き微溫的な援助と異り、佐多支部長以下非常なる熱意と努力を以て、積極合法的なる第三者運動が言論戰に文書戰に展開せられた、之等支部の活動は側面援助として選擧の結果に大なる效果を齎したる事は否み能はざる處である。

推薦候補者が如何に惠まれたる環境に於て此の選擧を戰ひ得られたるかは、共の大阪に於ける又は全國的結果が之れを證明して余りがある。

斯くして劃期的なる候補者推薦制度に依る選擧は推薦候補の絶對優勢裡に終局を告げ戰前此の方法に對して行はれたる兎角の批判に對し事實を以て有力なる回答を與ふる事となつた、共の後續々として行はれたる地方選擧も殆んど此例に做て候補者推薦制を採用し夫々の效果を擧げて居る、將來選擧法の改正に本制度法制化が考慮せられつゝある事も無理からぬことであると考へられる、然し私は今次の選擧を通觀して今直ちに此の制度を、此の一回の經驗に依り法制化する事が果して妥當であるか否かに付ては、尙充分の研究考慮を要する余地があると思はれる。勿論私は現選擧界の實情に於て推薦制度の必然性を否定するものでない事は勿論であり在來の自由立候補、自由選擧に對し是正さるべき多くの點の存する事は人一倍之れを痛感して

居るものであるが、今次の選擧の行はれたる當時に於ける時局の重大性、社會環境、國民の政治的熱意、社會各層の協力態勢、之れを通じて得たる選擧の結果、之等を比較校量して靜かに推薦制其ものの前途を考ふる時、今直ちに制度化成文化するには何等かの殘されたるものが存するにあらざるかを考へさせられるのである、將來に於ける候補者選定の方法或は選擧法の改正が如何なる貌に於て我々の前に提示せられるかは、淺薄なる我々の智識を以てしては到底其の是非を測り得ざる處ではあるが、今次選擧の成果に顧み私は此の劃期的推薦制が在來の選擧に、選擧界に、一新紀元を劃したる事、延て翼贊議會の確立に一歩前進したる事、更に總ゆる方面の選擧制度に重大なる示唆を與へたる事に、國家の爲大いなる慶びを感ずると共に之れを勇敢に斷行したる爲政者の決斷に心からなる敬意を表するものである。

尙私個人としては此意義ある事業の末端に關與するの機會を得たる一代の光榮に感激しつゝ更に來るべき時代の選擧制度に對し多大の關心と期待を持つて其成行を凝視せんとするものである。

推薦選擧に參劃して

翼贊政治體制協議會
大阪府支部事務次長
江村至身

明治初期に萠芽し、明治末期から大正時代に結實した我國政黨は、我國運の進展に貢獻した事は否み得ない。然るに昭和時代に入り、全く爛熟し、漸く其缺陷を露呈するに至つて、政黨に對する罵聲囂々として起り、政治體制の轉換說が擡頭して來た。

古聖は「物其平を得ざれば即ち鳴る」と言つた。日本としては日露戰爭も、歐洲としては第一次歐洲戰爭も、時のアメリカ執政者の調停によつて媾和條約は締結せられたが、其條約は眞の平を得ず、長期休戰體制に過ぎなかつた爲に、何時か鳴らざるを得なかつたのである。第二次歐洲戰爭の事は暫らく措き、昭和時代に入り日本としては日支、日ソの關係が惡化し、それが延いて英、米との關係惡化に導入せんとして來たので、眞に其平の得るべく、太いに鳴らんとして、即應の準備に迫られてゐた。

然るに國民の總意を表現すべき政黨は、此危態に瀕せる國際關係を正視せず、各自の利害のみに執着し、事態即應に最大緊要なる國論の歸一を破るの陋態を演じてゐた。

時恰も滿洲事變が勃發し、滿洲國の誕生となり、所謂五・一五事件、二・二六事件も織込んで蘆溝橋事件から支那事變を釀生し、遂に大東亞戰爭に展開し、茲に長期休戰體制が破れ、世界戰爭の相貌を呈して、長期戰爭を決心せしめてゐる。今度は休戰狀態的な媾和を成立せしめてはならない。眞に永遠の平和を確立しなければならない。これが爲に日本は勝ち拔かねばならぬ。即ち大詔に炳乎たる通り、戰爭目的を完遂せねばならぬ。戰爭目的完遂は、あらゆる部面に亘り戰時體制の整備を必要とするが、特に國民の一致團結を表現する政治體制、つゞめて言へば、議會體制をば舊態から脫しなければならぬ。即ち議會は時局に覺醒した分子によつて構成された革新的なものとしなければならぬ。此氣運が漸次滋長して、政黨、政治團體は悉く解消せられ、擧國一致、戰爭の目的を完遂すべき革新議會、翼贊議會の確立に向つて今次の總選擧が行はれたのである。

今次總選擧は現行法の下に行はれたが、其特質は

一、翼贊選擧として行はれ、從來民意暢達の國民權として行使した選擧權は、天皇陛下の御下問に奉答する翼贊權として投票した點

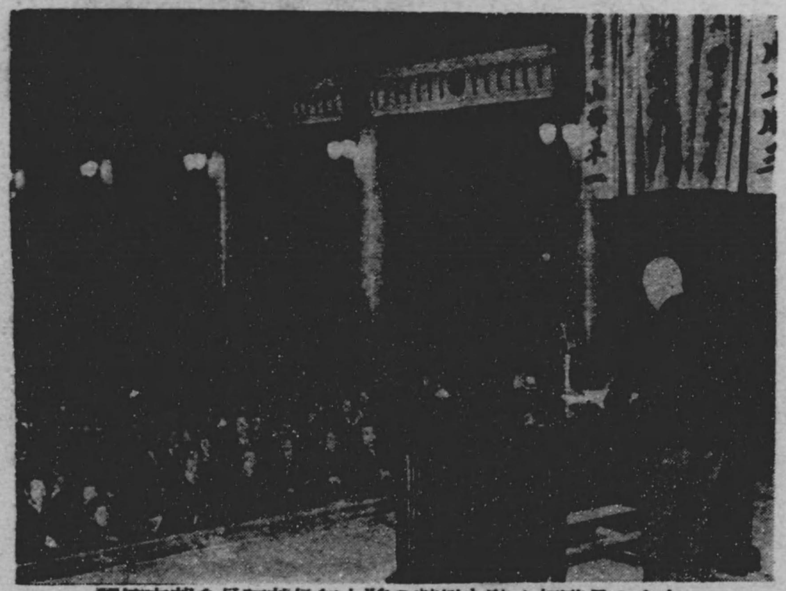
一、翼贊議會の構成の爲に、翼贊政治體制協議會なる議員候補者の推薦母體が成立し、之れに據つて候補者を銓衡推薦した點

一、推薦候補者が當初企劃の通り大部分當選し、其目的が殆んど達成した點

等である。

私は不敏の身を以つて、翼贊政治體制協議會大阪府支部事務次長に推擧せられ、小倉（元支部長）閣下、佐多（支部長）博士、白川前幹事長、植野前事務長諸賢の指導下に、この劃期的總選擧に參與し、翼贊議會の確立に一絲を續織し得たことは、無限の榮譽であり、感慨禁ずべからざるものがある。こゝに今次選擧の行程記錄を刊行するに際し、所感を叙すること爾り。

四月十二日大阪中央公會堂における翼協推薦翼賛大演説會場に叫ぶ阿部信行本部會長



翼協本部會長阿部信行大將の熱辯を聽く超滿員の會衆

翼賛選舉を顧みて

翼賛政治體制協議會の誕生

政府が第七十九帝國議會に於て、湯淺內務大臣（當時次官）から、現議員任期滿了の翌日即ち四月三十日衆議院議員の總選舉を行ふ旨言明し、翼賛選舉の趣意を確言したに端を發し、翼賛政治體制確立に對する要望は各方面から澎湃として擡頭するに至つた。

政府は二月十八日臨時閣議を開き、左記の翼賛選舉運動基本要綱を決定すると共に、東條首相談を發表して總選舉に臨む態度を明示し、各方面から擡頭せる要望に應へた。

總選舉對策翼賛選舉貫徹運動基本要綱

一、運動ノ名稱

「大東亞戰爭完遂翼賛選舉貫徹運動」ト稱ス

二、運動ノ目的

大東亞戰爭ノ完遂ヲ目標トシテ清新強力ナル翼贊議會ノ確立ヲ期スル爲衆議院議員總選擧ノ施行セラルルニ際シ一大擧國的國民運動ヲ展開シ以テ重大時局ニ對應スベキ翼贊選擧ノ實現ヲ期セントス

三、運動ノ基本方針

(一) 選擧ヲ機トシ必勝ノ國民士氣ヲ昂揚シ大東亞戰爭完遂ニ對スル擧國鐵石ノ決意ヲ鞏固ナラシム

(二) 清新強力ナル翼贊議會ヲ確立スル爲國民ノ眞摯純正ナル政治的意欲ヲ積極的ニ喚起昂揚セシム

(三) 大東亞戰爭完遂ノ大目的ニ副ヒ眞ニ大政翼贊ノ重責ニ任ズベキ最適ノ人材ヲ議會ニ動員スルノ氣運ヲ汎ク醸成セシム

(四) 重大時局下ノ選擧タルニ鑑ミ愈々選擧ノ倫理化ヲ徹底シ斷ジテ在來ノ情勢ヲ一掃シ公正ニシテ明朗ナル選擧ヲ實現セシム

四、運動ノ實施方策

(一) 啓蒙運動ノ徹底

本運動ハ右ノ基本方針ニ則リ大東亞戰爭ノ完遂、翼贊議會ノ確立、翼贊選擧ノ實現ヲ目標トスル一大啓蒙運動トシテ部落會、町内會、隣保班等ノ市町村下部組織ハ勿論各種團體其ノ他有ユル組織ヲ動員シ活發ナル展開ヲ期スルモノトス

(二) 候補者推薦氣運ノ醸成

翼贊選擧實現ノ啓蒙運動トシテ最適候補者推薦ノ氣運ヲ積極的ニ醸成セシム

(三) 選擧ノ倫理化ト戰時態勢化

重大時局下ノ選擧ニ際シ眞ニ翼贊選擧ノ實ヲ擧ゲシムル爲、左ノ方途ニ依リ選擧ノ倫理化ト戰時態勢化ヲ期スルモノトス

(1) 選擧ニ關スル在來ノ情實因緣ヲ一掃シ選擧ノ公正ヲ期セシム

(2) 一般選擧民ノ自覺ヲ喚起シ選擧犯罪ノ根絶及ビ棄權防止ニ努メシム

(3) 選擧運動關係者ニ對シテハ自肅自戒以テ違反ノ絶無ヲ期セシム

(4) 戰時ニ即應シ選擧運動上物資、勞力等ノ節約ト運動方法ノ改善合理化ニ努メシム

五、運動實施機關

本運動ハ之ヲ官民一體擧國運動タラシムルモノトシ運動實施機關ノ分擔ハ概ネ左ハ依ルモノトス

（一）政府ハ運動基本方策ヲ決定シ關係機關ノ緊密ナル連絡ノ下ニ運動全般ヲ指導ス

（二）地方廳ハ政府ノ基本方策ニ即應シ運動實施方策ヲ決定シ地方ニ於ケル運動全般ヲ指導ス

（三）大政翼贊會（翼贊壯年團ヲ含ム）及選擧肅正中央聯盟ハ政府及地方廳ニ協力シ民間運動ヲ展開ス

東條首相の談話（要綱）

「（前略）今回の衆議院議員總選擧は、昨年議員の任期が延長せられた結果、滿五年目の總選擧であり、又支那事變開始以來最初の總選擧である。

大東亞戰爭下において敢へて今次の總選擧を行はんとする所以は、一に選擧が戰時下國民の總力を結集し擧國いよ〳〵決意を固くして戰爭目的の完遂に邁進せしむる絶好の機會であると共に、一は今回の選擧を以て支那事變以來殊に大東亞戰爭開始以來飛躍的な發展を遂げた時局の新段階に對應すべき清新なる議會の成立を期待するに外ならないのである。即ち政府に於ては此の選擧が舊套を一掃して眞に公正明朗に行はれ、これによつて大政翼贊の熱に燃え、大東亞戰爭の目的完遂の爲に積極的に力を致すべき有爲の人材の一人にても多く選出せられることを熱望するものである。かくて國民の胸中に漲る征戰目的完遂の意氣と氣魄とが遺憾なく披瀝せられ、大政翼贊の赤誠と至情とが十分に吐露せられ、こゝに翼贊政治の本領の發揮せられんことを希望する次第である。

これがためには政府は、今次選擧に際し、國民運動が展開せられ、特に先に述べたるが如き積極有爲の人材が從來の因襲を破つて現實に選出せらるゝやう、その氣運が積極的に醸成せらるゝことを希望し、さらにその實現に關する最も適切なる方法について、廣く國民一般の工夫と盡力とを期待してゐる。各位の如き各方面の先達の方々がこの趣旨をよく領得せられ、如何にこの目的を達するかの方途につき御考究を賜り、これが達成のために振つて御盡力の程を切に希望する次第である。」

各界代表を招請

政府は如上の翼贊選擧運動に關する基本方針に據り、二月二十三日各界代表左記三十五氏を首相官邸に招請し、政府の方針達成に協力を要望した。

陸　軍　大　將　阿部信行

大政翼贊會副總裁　陸軍中將　安藤紀三郎

貴族院議員男爵　井田磐楠

農業報國聯盟會長　石黒忠篤

大日本興亞同盟理事長　遠藤柳作

衆議院議員　大麻唯男

理化學研究所長理學博士子爵　大河內正敏

貴族院議員　太田耕造

衆議院議員　太田正孝

衆議院議員　岡田忠彥

貴族院議員　小倉正恒

衆議院議員　勝正憲

貴族院議員男爵　兒玉秀雄

陸　軍　大　將　小磯國昭

大政翼贊會中央協力會議々長　後藤文夫

工業組合中央會々頭　伍堂卓雄

帝國農會々長男爵　酒井忠正

貴族院議員　下村宏

海　軍　大　將　末次信正

産業組合中央會々頭　千石興太郎

海　軍　大　將　高橋三吉

貴族院議員　瀧正雄

日本新聞會々頭　田中都吉

帝國學士院會員　德富猪一郎

衆議院議員　永井柳太郎

大日本產業報國會々長　平生釟三郎

產業設備營團總裁　藤原銀次郎

日本商工會議所會頭　藤山愛一郎

衆議院議員　前田米藏

貴族院議員男爵　矢吹省三

衆議院議員　山崎達之輔
日本銀行總裁　結城豊太郎
大政翼贊會事務總長　横山助成

阿部元首相を會長に推戴

各界代表は別に協議の結果、政府の意を諒とし、積極的に且全面的に協力する事に決定、左記の如く申合した。

申合

大東亞戰爭終局ノ目的完遂ノタメ來ルベキ總選擧ニ際シ強力ナル翼贊議會體制ノ確立ヲ期シコレガ適切ナル方途ヲ講ゼンコトヲ申合ス

そして直に翼贊政治體制協議會結成の準備に入り、元總理大臣、陸軍大將阿部信行氏を會長に推した。

招請された各界代表三十三氏を翼協（翼贊政治體制協議會の略稱とし隨處に用ゆ）本部構成の會員とし、其中から

遠藤柳作　大麻唯男　太田耕造　岡田忠彦
後藤文夫　伍堂卓雄　千石興太郎　瀧正雄
藤山愛一郎　山崎達之輔　横山助成　阿部信行

の諸氏を特別委員とし、諸般の準備を進め、先づ左記會則を決定した。

翼贊政治體制協議會々則

第一條　本會ハ翼贊政治體制協議會ト稱ス

第二條　本會ハ大東亞戰爭目的完遂ノ爲昭和十七年四月施行ノ衆議院議員總選擧ニ際シ適正ナル全國的推薦運動ヲ行ヒ以テ强力ナル翼贊議會體制ノ確立ヲ期スルヲ目的トス

第三條　本會ハ東京ニ本部、各道府縣ニ支部ヲ設置ス

第四條　本會ニ會長一名及幹事若干名ヲ置ク

會長ハ會務ヲ統理ス

幹事ハ會員中ヨリ會長之ヲ委囑シ會務ヲ掌理ス

第五條　本會ニ事務局ヲ置ク

會長ノ命ヲ承ケ會務ニ從フ

第六條　支部會員ハ本部之ヲ委囑ス
支部ニ支部長一名及幹事若干名ヲ置ク
支部長ハ支部會員中ヨリ會長之ヲ指名シ、支部幹事ハ支部會員中ヨリ支部長之ヲ指名ス
第七條　本會ニテ推薦スベキ候補者ハ各支部ニ於テ銓衡ノ上內申シ本部之ヲ決定ス
第八條　本運動ニ要スル經費ハ會員ノ負擔又ハ寄附金ニ依ルモノトス
第九條　本會ハ昭和十七年施行ノ衆議院議員總選擧終了後殘務處理ノ上解散ス

翼協本部設置

次いで翼贊選擧運動實踐の爲に、三月四日本部を東京丸ノ內大東亞會館に設置し、本部役職員、機構を左記の通り決定した。

會長　阿部信行
幹事　遠藤柳作　太田耕造　瀧正雄　横山助成
事務局長　橋本清之助
事務局には實踐、總務、連絡の三部を設け、活動の分擔を明かにした。近畿連絡班長として大阪府支部は中林貞男氏が擔當せられた。

全國支部結成委員と推薦候補者銓衡委員

井田磐楠　遠藤柳作　△大麻唯男　太田耕造
太田正孝　△岡田忠彦　勝正憲　△小磯國昭
△後藤文夫　△伍堂卓雄　△下村宏　△末次信正
△千石興太郎　△高橋三吉　瀧正雄　田中都吉
△永井柳太郎　△平生釟三郎　△山崎達之輔　横山助成
△藤山愛一郎　前田米藏

越えて三月八日前記二十二氏を推薦候補者銓衡委員に、その中十三氏（△印）を支部結成委員に、各指名依囑した。かくて三月十八日政事結社の許可と共に、本部結成委員の調整したる全國道府縣支部長を依囑、續いて二十日道府縣各支部會員八百名を依囑し、早くも二十二日支部長會議を開催、こゝに全く陣容整備し、國民待望の翼贊政治體制協議會は確立さるゝに至つたのである。（支部長會議に於ける會長の挨拶は卷頭に掲載）

翼協大阪府支部の發足

翼贊政治體制協議會大阪府支部が、三月二十一日結成式以前に、凡ての準備を整へ、堅き基礎を築いたのは言ふまでもない。それは小倉（最初の支部長）閣下を始め首腦となつた人々の努力によるが、こゝには省略しよう。結成式以後の事と雖も、各關係者の隱れたる苦心慘憺の狀況などには觸れず、只殘されたる記錄文書によつて、今回の翼贊選擧に對する支部の動靜のみを記述する。

支部長と支部會員

大阪府支部の結成式を擧行に先だち、高德の士小倉正恒氏が十八日支部長に、二十日各界一粒選りの名流左記十七氏が支部會員に委囑されたのである。

大阪府支部會員（△印 支部長 ◎印 幹事長 ○印 幹事）

貴族院議員 △小倉正恒
大阪府町村長會長 ○磯村彌右衞門
大阪府翼贊壯年團長 石倉小三郎

大阪府のポスター

大阪商船株式會社社長 岡田永太郎
大阪府産業報國會副會長
大政翼贊會中央協力會議員 ○小畑源之助
同 大阪府支部常務委員
關西急行鐵道株式會社社長 ○種田虎雄
東洋紡績株式會社社長 種田健藏
大阪府會議長 蒲田利郎
大阪市會議長 川畑清藏
大阪商工會議所會頭 工學博士 片岡安
株式會社久保田鐵工所社長 久保田權四郎
日獨協會長 醫學博士◎△佐多愛彥
大政翼贊會中央協力會議員
同 大阪市支部協力會議議長◎◎白川朋吉
日本生命保險株式會社々長 成瀨達
貴族院議員 堀啓次郎
元貴族院議員 ○森平兵衞
大政翼贊會大阪府支部常務委員
大亞細亞協會大阪支部理事 由上治三郎

支部結成式を擧行

既に支部長、支部會員も委嘱せられ、また政事結社の許可も得た。仍つて三月二十一日午前十一時より新大阪ホテルに於て、楠野泰夫氏司會にて支部結成式を嚴肅に擧行した。國民儀禮の後、大詔を捧讀し、次いで佐多愛彦博士の發聲にて左記「誓」を合誦、小倉支部長の式辭あり、記念すべき結成式を終つた。

誓

一、大東亞戰爭下、衆議院議員總選擧ヲ迎フルニ當リ、我等ハ翼贊選擧ノ貫徹ニヨリ清新強力ナル翼贊議會ヲ確立シ以テ聖戰ノ目的ヲ達成セン事ヲ期ス

小倉支部長式辭

本日茲ニ翼贊政治體制協議會大阪支部ヲ結成スルニ當リマシテ御挨拶ノ機會ヲ得マシタル事ハ私ノ最モ欣幸トシ且光榮ニ存スル所デアリマス

大東亞戰爭開始以來僅カニ三ケ月緒戰ニ於テ米英蘭ノ重要據點ニ殲滅的打擊ヲ與ヘ決定的勝利ヘノ一段階ヲ劃シマシタルコトハ御稜威ノ下皇軍將兵ノ善戰敢鬪ノ賜デアリマシテ唯々感激ノ極ミニ存スル次第デアリマス　此赫々タル戰果ニ對應致シマシテ國內諸體制ヲ整備强化致シマスル事ハ將ニ我大東亞戰爭ノ目的ヲ完遂シ驕古ノ聖業ヲ達成スル所以デアルト信ズルノデアリマス

政府ガ大東亞戰下敢テ衆議院議員選擧ヲ執行致サレマス所以モ亦此國內體制整備ノ一翼タル政治新體制ヲ確立スベキ好箇ノ機會ナリトノ御信念ニヨルモノト拜察致シ衷心國家ノ爲欣幸ニ存スル次第デアリマス　從テ此ノ重大意義ニ鑑ミ國民ノ凡ユル智能ト政治的意慾ヲ凝結致シ我無比ノ國體ニ徹シタル翼贊議會ノ確立ヲ提唱サルヽノニ呼應致シマシテ曩ニ翼贊政治體制協議會ノ誕生ヲ見ルニ至リ本日亦此ノ要請ニ應ジマシテ茲ニ當支部ノ發足ヲ見ルニ至ツタノデアリマス　即チ支部ハ今後當面致シテ居リマス今次選擧ニ際シマシテ適正ナル推薦運動ヲ行ヒ清新ニシテ强力ナル翼贊議會體制ノ確立ヲ期シ以テ大東亞戰爭目的ノ完遂ニ邁進セントスルモノデアリマス　特ニ政治ガ經濟ニ先行致シマスル現狀ニ於テ我國經濟ノ中樞タル當地方ニ於ケル本運動ノ成果ハ延テ翼贊議會ノ確立ニ重大ナル影響ヲ及ボスベク今後ノ成否ニ係ルモノナル事ニ想倒致シマスルトキ私共ノ責任ノ實ニ容易ナラザルヲ痛感致スモノデアリマス

何卒府民各位ノ深キ御理解ト心カラナル御協力トニ倚リ其職責ヲ全ウ致シ度ク深ク念願致ス次第デアリマス

●當日の出席者は次の諸氏である。

支部長　小倉正恒

會員　小畑源之助、白川朋吉、蒲田利郎、片岡安、森平兵衞、堀啓次郎、磯村彌右衞門
岡田永太郎、佐多愛彦、種田虎雄、石倉小三郎、成瀬達、由上治三郎、種田健藏の諸氏　（川畑清藏、久保田權四郎二氏は上京不在中の爲め缺席）

支部の陣容整ふ

支部結成式の當日、會員懇談會、第一回幹事會を開催したが、左記の通り、支部規約の制定支部擧明の發表、幹事長、幹事等役員の指名委囑、事務長、事務次長の選任、支部事務局の設置等矢つぎ早に進捗せられた。

支部事務局　（大阪市東區內本町橋詰町）　大阪府立實業會館內

幹事長　佐多愛彦

幹事　白川朋吉　磯村彌右衞門　小畑源之助　種田虎雄

事務長　府會議員　楠野泰夫　電話　支部長室　東一七七番　幹事長室　東一八番　事務局　東二四番

事務次長　府會議員　江村至身

其後、小倉支部長は戰時金融金庫總裁就任に因り四月八日辭任、同日の支部會員總會に於て佐多幹事長が支部長に、白川幹事が幹事長に、會員森平兵衞氏が幹事にそれ〳〵推擧されたのである。

翼賛政治體制協議會大阪府支部規約

第一條　本支部ハ翼賛政治體制協議會大阪府支部ト稱シ、大阪市ニ置ク

第二條　本支部ハ大阪府ニ於テ本協議會々則第二條ノ目的ヲ遂行ス

第三條　本支部ニ支部長、幹事長各一名及幹事若干名ヲ置ク

第四條　支部長ハ本支部ノ會務ヲ統理ス
支部長事故アルトキハ支部長ニ於テ代理者ヲ指名ス

幹事長ハ支部長ヲ補佐シ會務ヲ掌理ス

幹事ハ幹事長ヲ輔ケ會務ヲ處理ス

本支部ニ事務局ヲ置キ事務長ヲ任命ス、事務長ハ命ニ依リ會務ニ從事ス

第五條　本支部ノ經費ハ會員ノ負擔及寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　本支部ハ昭和十七年四月施行ノ衆議院總選擧終了後殘務整理ノ上解散ス

聲明

本日　阿部翼贊政治體制協議會長ヨリ地方協議會員トシテ委囑サレタル者相集ヒ只今大阪府支部ノ結成式ヲ擧行致シマシタ

當支部ハ本部ニ呼應致シマシテ大東亞戰爭完遂ノ爲メ今回ノ衆議院議員總選擧ニ際シ適正ナル推薦運動ヲ行ヒ國家ノ要請ニ應ズベキ清新强力ナル翼贊議會體制ヲ確立シ以テ肇古ノ聖業ヲ翼贊シ奉ラムトスルモノデアリマス

私共ハ眞ニ不敏短才デアリマスガ一切ノ私心ヲ去リ其目的ヲ達成致シマスル爲メ挺身御奉公ノ決意ヲ固メテ居ル次第デアリマス

大阪府支部事務局職員

支部事務局陣容は次の如く整備された。

事務長	楠野泰夫	演說係	書記　小西政治郎
事務次長	江村至身	同	書記　高岡幸
庶務係	書記　山本久七	本部係	書記　西羅友和
文書係	書記　井上納吉	連絡係	書記　金內國之助
同	事務員　大下修三	同	事務員　中筋美代子
同	事務員　小笠原武雄	同	事務員　佐藤加代子
同	事務員　海老絹子		

事務局開始と共に、山本、井上兩書記は楠野事務長、江村次長の指揮を受けて諸般の施設に盡粹し、四月九日に至りて頭書の通り各事務を分掌しかつ書記、事務員を三班に分ち各班毎夜十一時迄交替勤務、二十日以後は事務殺到のため毎夜全員勤務となつた。

支部幹事會と會員總會

幹事會　三月二十一日に第一回幹事會を開いて以來、二十四、二十五、二十八、二十九、三十、三十一日、四月四日、九日、十五日以後選擧終了まで殆んど隔日に開催し、支部長若くは幹事長は相互に殆んど毎日出勤せられて、諸般の事務を處理せられた。五月五日新大阪ホテルに於て開かれた幹事會を以つて最終とする。其努力せられたる狀察すべきである。

會員總會　第一回は三月二十一日新大阪ホテルに於て、支部結成式直前に懇談會の形式で開催、第二回は同二十九日午後三時から支部會議室に於て開催、全員出席（堀啓次郎氏中途退席）し國民儀禮の後

一、支部長會議の結果（小倉支部長報告）

一、候補者銓衡に對する方針の大綱

一、候補者銓衡の具體的方法

を議題として協議し、其結果左の通り意見の一致を見た。

一、幹事會にて大體の原案を作製しそれを檢討調査すること

一、會員各個の意見は三十日午前十時迄に支部長へ申告すること

一、三十一日午前十時會員總會を開き最後の決定をすること

推薦候補者決定の總會

前回の總會決議に基き、三月三十一日午前十時支部會議室に於て開催、全員出席（佐多幹事長上京缺席）し、小倉支部長から幹事會の報告及挨拶、楠野氏から事務上の報告あり、候補者銓衡案を附議したが、

「會員各個の意見は既に支部長に具申しあるを以つて本席上では候補者の氏名表示を避け本部への內申は一切支部長に一任」

に全員一致決定、これで大阪府推薦候補者についての支部の態度は確定したのである。

推薦候補者を發表

大阪府支部の內申した各區推薦候補者は、本部において愼重審議の結果定員二十一名に對して次の二十名を四月五日發表した。

第一區（定員　三名）

戰果にこたへて必ず投票

川上胤三、田万清臣の二氏

第二區（定員　三名）

田中藤作、山本芳治、紫安新九郎の三氏

第三區（定員　四名）

池崎忠孝、内藤正剛、上田幸吉、山野平一の四氏

第四區（定員　四名）

大川光三、菅野和太郎、吉川吉郎兵衛、江崎利一の四氏

第五區（定員　四名）

大倉三郎、勝田永吉、脊和義弐、杉山元治郎の四氏

第六區（定員　三名）

井阪豊光、松田竹千代、河盛安之介の三氏

第四回總會　第四回會員總會は四月八日、新大阪ホテルに於て開催（小倉、磯村、種田(虎)、種田(健)、成瀬五氏缺席）し

一、推薦候補者決定經過（楠野事務長報告）

一、小倉正恒氏支部長辭任につき後任支部長に佐多愛彦氏就任

一、佐多愛彦氏支部長就任につき後任幹事長に白川朋吉氏就任

一、會員森平兵衛氏は幹事に就任

其他數件を議定した。

最後の選擧對策總會

選擧も第三期に入り、最後の必勝對策協議のため四月二十二日支部會議室に於て會員總會を開催、佐多支部長、白川幹事長、磯村、堀、小畑、種田(虎)、種田(健)、蒲田、森、由上諸氏出席、楠野事務長より

一、支部として激勵慰問、激勵電報發信、ハガキ推薦狀發送、レコード、印刷物等發送、支部幹旋の辯士並に本部派遣視察員等を各候補者に應援割當

などについて報告、更に

一、各候補者、情勢概況表

一、當選豫想票數表

一、立候補者演說狀況表

一、文書戰强化に關する本部の指示

一、各選擧區別個人主催の推薦演說會計畫について詳細に說明し、愼重なる對策を協議した。

推薦候補者へ配付文書

推薦候補者に對して、本部並に支部から配付せられたるものは次の通り

一、新政治體制を目ざして（阿部會長述）
一、大東亞戰下の總選擧（阿部會長述）
一、翼贊政治體制協議會の使命（翼協編）
一、選擧運動心得（翼協本部並に支部編）
一、演說必携（翼協本部編）
一、腕章並に徽章
一、本部並に支部會員署名凸版
一、阿部會長寫眞版

傳宣頭街で居芝紙が團年壯

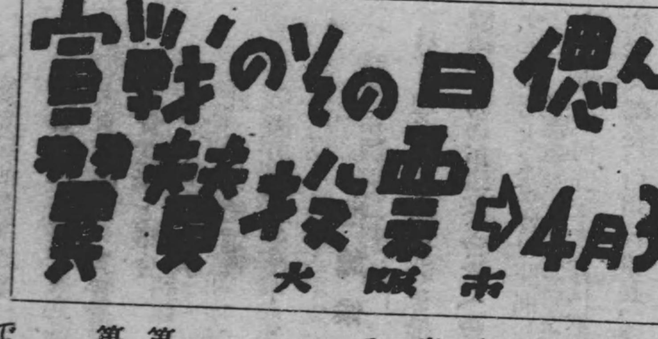
一、推薦候補者推薦並に翼贊選擧吹込みレコード

○翼贊選擧と正しき一票　阿部會長
○大東亞戰下の翼贊選擧　阿部會長
○翼贊選擧と議會　後藤文夫氏
○產業人と總選擧　平生釟三郎氏
○此一戰と總選擧　末次信正氏
○皇國の興廢を決する一票　永井柳太郎氏

推薦候補者と懇談會

最も適正なる候補者を推薦し得た大阪府支部では、各候補者の陣容全く整つた四月十二日大阪中の島の中央公會堂へ會長阿部信行大將、特別委員永井柳太郎兩氏を迎へて推薦候補者に對する推薦大演說會を開催して應援の第一聲を發したが、更に翌十三日新大阪ホテルに推薦候補者十九氏（河盛安之介氏缺席）を迎へ來阪中の永井特別委員との懇談會を開催した。支部側から佐多支部長、白川幹事長、森、礒村兩幹事、楠野事務長ら出席、選擧狀勢につき隔意なき懇談を遂げ府警察部から田中情報課長の臨席を乞ひ質疑應答を行ひ最後に永井氏から各候補者へ激勵の辭あつて散會した。

府支部の生活々動



支部結成までには其準備、其下拵らへに、また解散屆出後にはその跡始末に、役員や職員首腦者は相當辛苦を重ねたのは勿論だが、支部の正式生活は三月二十二日の結成式に始まり、政治結社解散屆出した五月七日終つた譯で、激しい生活活動は四十八日間であつたこれを概觀すると四期に分けることが出來る。

準備期　候補者銓衡時代

先づ本部からの銓衡に關する二つの指示を見ねばならぬ。

第一　銓衡基準及內申數

第二　銓衡內示

この第一、第二の指示事項は秘密に屬して公開を許容されないので內容の記述し得ないのは遺憾である。尙支部では次の申合せをした。

申合　本會員ハ今後立候補事項ニ關シ各人箇々ノ面接セザルコト

如何に公正に銓衡しようとしたかの面目が偲ばれる。

候補者の推薦銓衡は難事中の最大難事であり、首腦者の苦慮は想像の外にあつた。一般標準の他に經濟首都たる特異性も織込むことを忘れられなかつた。また新人の躍進にも力を入れねばならぬ。最近標語の一たる「出たい人より出したい人」を銓衡するにしても、對手に政治的意慾、興味がなければ銓方なく、所謂帶に短かし襷に長しの譬へに漏れず、しかも、理想し乍ら現實を忘れず、眞に肝膽を碎いて、二十名の候補者を推薦內申するに至つた。

然りと雖も阿部會長も言はれた通り、候補者に定員制限あるために推薦に洩れたが、それは必ずしも人材にあらずと言ふのでないことを知らねばならぬ。

支部において如何に候補者推薦に苦心したかは次の銓衡會における支部長の報告によつても窺へる。

之れより翼賛政治體制協議會大阪府支部の會員總會並に大阪府下衆議院議員候補者中本會に於て推薦せんとする候補者の銓衡會を開催致します。

會議に入るに先立ちまして一言御挨拶を申上げます、過日本支部結成以來格別の御配慮を賜りまして國家の爲め眞に御苦勞に存ずる次第であります、去る二十一日當支部委員の御委囑を受けまして第一回會合以來皆樣に御會同を煩はし、其時に御報告を申上げ且つ御協議を申上ぐべき筈でありましたが御多忙の事と存じまするし、本部の指示にも依りまして銓衡會は二十八日以後開催する樣固く申越し居りましたので本日迄御會合を差控へまして其間三月二十一日以後本日迄四回に亘り幹事諸君の御會同を御願致し其都度適宜の處置を講じて參つたのであります。

幹事會に於きましては主として各方面の情勢並に候補者等につきまして御協議を煩はします る基礎に關し御勞力を御願致して參つたのであります、更に私は去る三月二十二日本部に招集を受けまして支部長會議に列席致して參りましたが、其要領につきまして事務長より後程御報告致させます、要するに本部に於きましては、協議會に於ては本推薦銓衡に重點を置きまして選擧運動は一般對策以外は之を行はざる事を建前と致して居りますが、其具體的方法は都度本部より指示ある事と存じますから其際又各位に御傳達御協議申上ぐる事と致したいと存じます。

事務長より報告の件（極秘に付内容省略）

（一）銓衡に對する方針の大綱

（二）銓衡具體的方法

第一期　候補者陣容整備時代

四月五日、本部銓衡委員會に於て推薦候補者二十名を決定、阿部會長から小倉支部長に通告あり、各候補者へ通知し、其立候補を促した。各候補者はそれ〴〵陣容整備に入つたが、支部としては本部指示の選擧運動實施要項並に各指導、取締官憲等の見解方針をもよく聽取して其指示に從ひ推薦候補者應援に關する實踐に乘り出した。

一、文　書　關　係（第三者運動としての）

（イ）　屆出書類　法規類の注意

（ロ）推薦狀　（本部及支部の發送する形式文案その署名者の數などについて）

（ハ）非推薦候補者の立候補並に應援者及一般形勢の注意

（ニ）選擧運動用紙配給　これは無料郵便物用、立候補告知、演說會告知其他張札用等で、大阪府は大阪府洋紙商組合菊原敬次氏が市內末吉橋一の一〇大紙倶樂部で其衝に就いた（用紙配給は配給者と候補者との直接關係であつて支部は何等交涉はなかつた）

一、演說關係

（イ）應援辯士の斡旋に關する件

（ロ）本部派遣政情視察員の應援出演に關し豫め斡旋用意

（ハ）府下全體的の大演說會開催準備

（ニ）各候補者毎に第三者應援演說會開催の準備

（ホ）新聞紙の報導、論調に注意

上記の諸點について深き注意を拂ひ、陣容を整備して、第二期を迎へた。

第二期　言論戰時代

各候補者の陣容既に整ひ、漸く言論戰に入つた。立候補と同時に逸早く言論戰を開始した者もあつたが、極めて少數であつた。文書戰も開始されてはゐたが、まだ漸く立候補の挨拶位であつた。第二期に入り各候補者の言論戰が隨所に見るに至つた。しかし、何れも聽衆は極めて少數で、概して演說會は低調であつた。其理由は

一、戰時下產業其他多忙であり

一、戰爭完遂、翼贊選擧の一色にて演說が單調にして

一、出演者に特色精彩なく

一、結局推薦候補者に投票すれば可なりと云ふにあつたと想はれる。が、支部の調査によると、それでも矢張り言論戰の活氣のある所聽衆の多い所には、其候補者に人氣の集つてゐることを知り得たので此情勢に應じ、言論の內容、演說の方法について大いに考慮する所あり支部幹旋の應援出演者については優秀者を嚴選し、また成るべく多く配置するに努力し一方には本部へも優秀、多

數の視察員派遣を要請した。そして更に一段の氣勢を昂揚するために、本部から會長阿部大將特別委員永井柳太郎兩氏が西下、四月十二日、大阪中之島の中央公會堂で、各候補者應援大演說會を開催したのである。翌十三日、新大阪ホテルへ各候補者を招き、永井特別委員、佐多支部長、白川幹事長などから、大いに激勵する所あり、また支部長、幹事長、事務長、同次長等交互に各選擧事務所を慰問して、鼓舞激勵に努めた。機も漸く熟して來たのと、上記の大演說會や、幹部の激勵などの反響もあつて、低調沈滯を破り、連日連夜、演說會が開かれ、また聽衆も徐々に增加するに至り、選擧熱が加つて來た。その時、折あしく四月十八日に最初の一敵機來襲」があつたので、言論戰に一挫折を來たした。燈火管制のために演說會は出來なくなつたのである。しかし、國土防衛に獻身する軍官民一致の鐵桶陣は、容易に敵機を迫ひ散らし、擊滅し、再度の空襲を見ず、二十日頃から言論戰も開始せられ、翼贊會、壯年團、町內會、其他の啓蒙運動展開と相待つて、選擧熱の昂揚を見るに至つた。

第三期　白熱最高潮時代

既に選擧公報も續々有權者に配付されて、候補者の略歷、年齡、識見、主張も一通りは知ることを得、人格は完全に知り得ないとしても、此公報を通じて候補者の潛在せる特異性が把握される結果、有權者はそれ〳〵の候補者に好意を寄せるようになり、選擧戰に熱が昂つて來た各候補者はこゝぞとばかりに、言論戰に拍車をかける一方、文書戰においても、種々なる樣式形態を備へて、有權者に向つて彈雨と飛んで行くようになつた。支部としては刻々に接受する情報によつて、各候補者の戰況を知り、本部と呼應して推薦狀を主としてハガキで全般的に、或は部分的に發送し應援に力を注いだ。特に候補者の弱い場合、相手方候補者の强い場合、比較的地盤の薄い新人候補者の爲には、第三者運動としての手段を盡して應援に全力を盡した。電報による激勵は數回に及び、支部擧つて必勝の方法を講じた。候補者の言論戰に對しても、本部派遣の視察員諸氏に

牲別交涉し、出來得る限り數多く出演を乞ひ、時として歸京若くは他へ出張の豫定を繰替へて言論戰を戰ひ進めたのみならず、支部で斡旋の出演者、支部會員、支部職員も、續々乘り出して戰つた。

別記の通り、二十六日から二十九日に亘る各候補者の選擧區別に於ける大演說會の開催は、恰好の會場、高名の出演者を得、更に演說會の開催を周知せしめる爲に多量の告示ビラを散布し又新聞紙の告知廣告、新聞紙自體の記事によつて、甚だ廣く宣傳せられ、その結果各演說會場は一樣に聽衆激增、熱戰頂點に達し、既に「推薦候補勝てり」の印象を深く植ゑつけしめた。

開幕期　戰塵整理時代

翼贊議會を確立し、大東亞戰爭完遂を目標とする衆議院議員の總選擧は、四月三十日無事に終了した。大阪府下の定員二十一名に對し、推薦候補者は二十名で、その中、十七名が當選した。內藤正剛、會和義弐、江崎利一の三氏の惜敗は、甚だ遺憾なりと雖も、何れも善戰健鬪したのだから、寔に已むを得ぬ次第で捲土重來の機を待つの外はない。支部としては四旬餘に亘り、多大の苦心を拂つて、絕對大勝を獲得したのだから、滿悅此上はなく、積日の勞苦も全く忘れて、當選者の萬歲を叫び、國家の萬歲を叫び、翼選の萬歲を叫び、越えて五月五日午前十時、新大阪ホテルに於て最後の幹事會。同十一時、同所に於て最後の會員總會を開催して、諸般の整理、解散の準備を決定した。それと同時に同六日午後六時から大阪市北濱花外に於て推薦の新代議士と會員との懇談會を開催して、その當選について相互に慶び合ひ將來の政治について隔意なき意見を交換した。同七日大阪支部の解散屆出の手續を了し、直に本部へ報告、また佐多支部長から解散に際しての聲明を發して、國家の慶事なりとして、各方面への協力に謝意を表した。本書の結論として佐多支部長の解散に際しての聲明書を左に揭ぐ。

翼協府支部解散に際し佐多支部長聲明

今次の衆議院議員選擧に際し政府の要請に從ひ翼贊政治體制協議會確立の爲翼贊議會確立を見これに呼應致しまして我が大阪府に於ても去る三月二十一日支部の結成を見ると共にこの戰時下特に總選擧を行はれんとする重大意義と本會の使命に鑑み國家的要請にもとづく清新有爲の人材を愼重銓衡の上適正候補者を推薦し爾來五旬餘に亘り全力を傾注して之れが推薦運動

を積極的に展開し來つたのであります。

幸ひ府民各位の時局に對する深き認識と推薦制度に對する御理解により豫期以上の成果を收め以つて我國最初の政治上畫期的試みたる推薦制度に依る選擧を大成功裡に終結することを得ました事は憲政史上特筆大書せらるべきでありまして國家の爲眞に慶祝に堪へざる處であります。

當支部は府民各位の忠誠愛國の至情に對し衷心多大の敬意と感謝を捧ぐるものであります。茲に支部は選擧終了と共に其の使命を達成し殘務も結了致しましたので規約の明示する處に從ひ本日解散することに決定致しました此の機會に於きまして當支部結成以來各般の事項に關し御援助、御協力を賜りました御厚情に對し深く感謝の意を表明致しますると共に今回の選擧を契機と致しまして本推薦制度のよりよき發達を祈念し以つて解散の御挨拶に代へる次第であります。

翼賛政治體制協議會大阪府支部長

佐多愛彦

支部の大言論戰詳報

支部が展開した言論戰について詳述する。本部の主唱に呼應して、各候補者の政戰準備が漸く完了した四月十二日午後六時から大阪中央公會堂に於て、推薦候補者推薦大演說會を開催、關西に於ける選擧戰の第一聲を揚げた。事務次長江村至身氏の司會下に、事務長楠野泰夫氏は開會の辭を陳べ、宮城遙拜、英靈に感謝、傷病將士の快癒並に皇軍の武運長久祈願等の國民儀禮を嚴肅に行つた後、聽衆待望の講師

大阪府支部長　醫學博士　佐多愛彦

會長　陸軍大將　阿部信行

委員　衆議院議員　永井柳太郎

諸氏の眞摯、熱誠溢るゝ大演說があり、四千餘名の聽衆に多大の感激を與へ、午後九時五分盛況裡に効果を收めて終了した。

接戰陣地へ突擊戰

選擧戰は更に第三期に入り、大突擊戰を敢行すべく、豫て企劃して窃かに着々準備を進めて

るたが、機愈々熟した四月二十六、二十七、二十八、二十九日——選擧期日の三十日を目前にして——四日間に亘り、接戰の好陣地に乘込み、七ケ所に會場を設け各界の知名講師を迎へ、推薦候補者の爲に、推薦大演說會を開催し、遺憾なく翼協の威力を發揮して應援の實を擧げた。

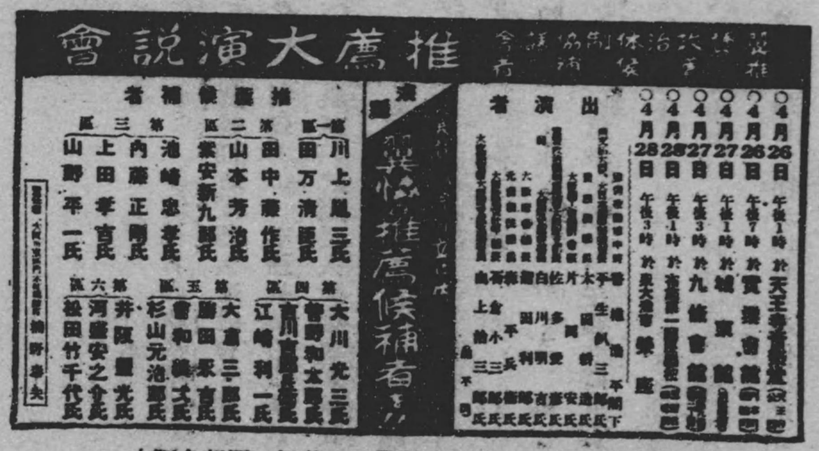
第二區（四月二十六日午後一時）

一、會　場　天王寺公園音樂堂

一、候補者　田中藤作氏
　　山本芳治氏
　　紫安新九郎氏

一、講　師　大阪府會議長　蒲田利郎氏
　　元貴族院議員　森平兵衞氏
　　貴族院議員子爵　岡部長景氏

一、司　會　事務長　楠野泰夫氏



大阪各新聞に掲載した翼協支部の推薦演說會廣告

第三區（四月二十六日午後七時）

一、會　場　實業會館（大阪市東區內本町）

一、候補者　池崎忠孝氏
　　山野平一氏

一、講　師　大阪府支部幹事長　白川朋吉氏
　　前文部大臣　平生釟三郎氏
　　陸軍少將　田部聖氏

一、司　會　事務次長　江村至身氏

第四區（四月二十七日午後一時）（大阪市旭區鴫野）

一、會　場　城東館（大阪市旭區鴫野）

一、候補者　大川光三氏
　　江崎利一氏

一、講　師　大阪商工會議所會頭工學博士　片岡安氏
　　陸軍少將　田部聖氏
　　貴族院議員子爵　岡部長景氏

一、講　師　菅野和太郎氏　吉川吉郎兵衞氏

一、司會　事務次長　江村至身氏

第一區（四月二十七日午後三時）

一、會場　九條會館（大阪市港區九條通三丁目）

一、候補者　川上胤三氏　田万清臣氏

一、講師　大阪府支部長醫學博士　佐多愛彦氏

大阪府翼贊壯年團長　石倉小三郎氏

貴族院議員子爵　岡部長景氏

一、司會　事務長　楠野泰夫氏

第五區（四月二十八日午後一時）

一、會場　布施第一國民學校（布施市都留彌神社前）

一、候補者　大倉三郎氏　勝田永吉氏　曾和義弐氏

杉山元治郎氏　太田耕造氏

一、講師　貴族院議員　由上治三郎氏

翼贊會府支部常務委員　香椎浩平氏

陸軍中將

一、司會　事務次長　江村至身氏

第六區（四月二十八日午後三時）

一、會場　榮座（泉大津市字多町）

一、候補者　井阪豊光氏　河盛安之介氏　松田竹千代氏

一、講師　大阪府支部長醫學博士　佐多愛彦氏

貴族院議員　太田耕造氏

陸軍中將　香椎浩平氏

一、司會　事務長　楠野泰夫氏

第五區（四月二十九日午後二時）

一、會場　岡町倶樂部（豊中市）

一、候補者　既記の通り

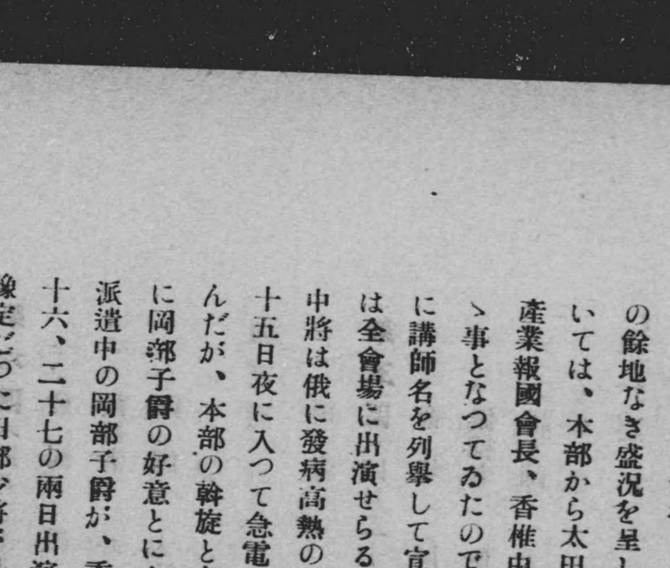
一、講師　大阪府支部長醫學博士　佐多愛彦氏

大阪府會議長　蒲田利郎氏

陸軍中將　香椎浩平氏

一、司會　事務長　楠野泰夫氏

以上何れの會場も、聽衆殺到して滿場立錐の餘地なき盛況を呈した。此演說會開催については、本部から太田貴族院議員、平生日本産業報國會長、香椎中將の三氏が派遣せらるゝ事となつてゐたので、新聞廣告、告知ビラに講師名を列擧して宣傳した。殊に香椎中將は全會場に出演せらるゝ筈になつてゐた。が中將は俄に發病高熱の爲に來阪不能の旨、二十五日夜に入つて急電あり支部では對策に惱んだが、本部の斡旋と奈良縣支部の雅量と更に岡部子爵の好意とによつて、恰も奈良縣へ派遣中の岡部子爵が、香椎中將に代つて、二十六、二十七の兩日出演せられ、更に歸京の豫定だつた田部少將が日程を變更して出演、また責任觀念に富む香椎中將は、稍や輕方に向ふや病軀を押して來阪、二十八、二十九兩日出演せられ、此擧が些の支障も起らず、完全に遂行



傳宣選翼て」通を童學

し得たことは無上の幸甚であり、來援の各位に深く敬意を表するものである。

本部派遣情勢視察員の活動

府支部の活動は日を經るに從つて着々成果を收め、支部長初め各關係者の意氣はます〳〵熾烈化し、推薦候補者の百パーセント當選と、翼選主旨浸透へ驀進をつゞけた、この間本部からは左の諸氏が情勢視察員として大擧來阪、各推薦候補者を歷訪、激勵の上、應援辯士として演說會にも出場された。

豫備役海軍中將	松下元	豫備役陸軍中將	兩角三郎
前企劃院次長	小畑忠良	小畑忠良氏隨行者	横尾文榮
翼贊會經濟部員	北野通夫	中外商業新報社	前田梅松
豫備役陸軍中將	二子石官太郎	豫備役陸軍少將	田部聖
立教大學教授	管圓吉	早大教授	石川徹
商業報國會東京府本部企劃部長	山田正治	豫備役陸軍少將	芦澤敬策
東京商報本部總務部長	半谷眞武	産業組合中央會教育部	山崎勉治
豫備役海軍少將	匝瑳胤次		

推薦候補應援斡旋

支部主催の推薦演說會並に各推薦候補演說會に、支部から、また支部の斡旋により熱辯をふるつた應援辯士は次の通りである。（數字は出場回數）

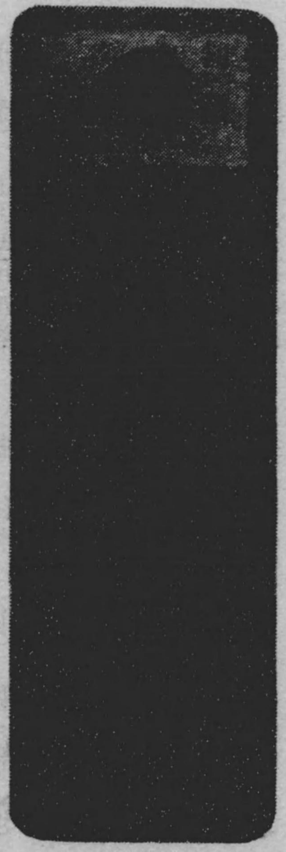
二	前府會議長	富田貞男	七
八	府會議員	押谷富三	三
二	大阪市會議員	瀧川堯	一
三	府會議員	小西池秀夫	一
一〇	府會議員	江村至身	二
一二	翼協支部書記	高岡幸三	三

七	辯護士	柴多庄一	
三	翼贊壯年團長	石倉小三郎	
一	工學博士	片岡安	
一	府會議員	楠野泰夫	
二	堺市會議員	小林貞義	
三	堺市會議員 翼協支部書記	小西政治郎	

輝く翼贊の成果

告示後の立候補者は數名の中途辭退者を除き、五十二名であつて、二十一名の定員に對し、實に三十一名の超過であつた。その中で翼協の推薦候補が二十名、準推薦と觀るべき候補が一名で、自由候補が三十一名であつた。

選擧の結果は、推薦十七名、準推薦一名、自由三名の當選を示した。



翼選一票行使の證

第一區（定員三名、投票數九二八三八）

當選	二六四〇一票	〇田	万清	臣（翼、前）
當選	二三一五二票	〇川	上胤	三（賛、新）
當選	一八四九八票	一	松定	吉（無、前）

推薦候補應援斡旋

支部主催の推薦演說會並に各推薦候補演說會に、支部から、また支部の斡旋により熱辯をふるつた應援辯士は次の通りである（數字は出場回數）

二　前府會議長　富田貞男
八　府會議員　押谷富三
二　大阪市會議員　瀧川堯
三　府會議員　小西池秀夫
一〇　府會議員　江村至身
二　翼協支部書記　高岡幸
七　辯護士　柴多庄
三　翼贊青年團長　石倉小三郎
一　工學博士　片岡安
一　府會議員　楠野泰夫
二　堺市會議員　小林貞義
三　堺市會議員　小西政治郎
翼協支部書記

輝く翼贊の成果

告示後の立候補者は數名の中途辭退者を除き、五十二名であつて、二十一名の定員に對し、實に三十一名の超過であつた。この中、翼協の推薦候補が二十名、準推薦と觀るべき候補が一名で、自由候補が三十一名であつた。

選擧の結果は、推薦十七名、準推薦一名、自由三名の當選を示した。

翼贊投票の家
府市　販販　大大

第一區（定員三名、投票數九二八三八）

當選　二六四〇一票　○田方清臣（翼、前）
當選　二三一五二票　○田上雁三（贊、新）
當選　一八四九八票　一松定吉（無、前）

次點　一五三一二票　桝谷寅吉（無、元）
三一三五票　伊藤松太郎（無、新）
二五三六票　菊池東一郎（國、新）
二四三八票　東正康（無、新）
三八四票　吉倉巳之助（無、新）

第二區（定員三名、投票數五八三八九）

當選　一七三三九票　○山本芳治（實、前）
當選　一五五〇六票　○田中藤作（實、新）
當選　一三七九四票　○紫安新九郎（實、前）
次點　七四七〇票　井上良次（無、前）
三四八八票　澁田常太郎（無、新）

第三區（定員四名、投票數九九九一八）

當選　二四一六八票　○池崎忠孝（議、前）
當選　一七八四九票　高梨乙松（無、新）
當選　一六八六三票　○上田孝吉（實、前）

當選　一一五六四票　○山野平一（賛、新）
次點　一〇九〇七票　塚本重藏（無、前）
八一〇六票　○内藤正剛（實、前）
四四七一票　廣江源三郎（無、新）
二八九五票　吉津度（無、元）
一七七七票　金正米吉（無、新）

第四區（定員四名、投票數二七三一四六）

當選　四三七九七票　○菅野和太郎（賛、新）
當選　四〇一五三票　○大川光三（賛、新）
當選　三三〇八二票　○吉川吉郎兵衛（實、前）
當選　三〇六九九票　西尾末廣（與、前）
次點　二八三八〇票　○江崎利一（無、新）
一七四九三票　山根敏三（無、新）
一四九三六票　中山福藏（無、前）
一〇八一七票　大橋治房（賛、新）

八七五〇票　辛　泰嶽（無、新）
八三〇〇票　川村保太郎（無、元）
八〇八六票　本田彌市郎（交、前）
六一五九票　李　善洪（無、新）
五九三〇票　吉松正勝（國、新）
五五四八票　大源正行（無、新）
四六二三票　遠藤清（無、新）
二三〇七票　毛谷村三次郎（無、新）

第五區（定員四名、投票數一六九〇四七）

當選　三七〇一九票　○勝田永吉（翼、前）
當選　三六一七三票　笹川良一（國、新）
當選　二五四七四票　○杉山元治郎（無、前）
當選　二〇八九二票　○大倉三郎（無、新）
次點　一七八二九票　○曾和義弐（翼、前）
一四八二七票　田中萬逸（翼、前）

七八六六票　鈴木愛之助（無、新）
七一八八票　寺島宗一郎（無、新）

第六區（定員三名、投票數九九四六二）

當選　三二六〇三票　○河盛安之介（翼、新）
當選　二四一九二票　○松田竹千代（翼、前）
當選　二二八二三票　○井阪豊光（翼、前）
次點　一一四〇七票　中尾武彦（翼、新）
四三一七票　田邊納（東、新）
四二五二票　堀內寅太郎（無、新）

備考……○印は翼協推薦、（翼）は翼贊議員同盟、（翼）は新、元にして大政翼贊會關係、（交）は同交會、（興）は興亞議員同盟、（議）は議員俱樂部、（東）は東方會、（國）は國粹大衆黨、（無）は無所屬を示す。

榮ある當選者二十一名

第一回翼贊選擧戰は終つた、府支部推薦候補者中、八十五パーセントの好當選率を示すに至つた、各區當選者の略歷は次の通りである。

第一區

田万清臣氏（大阪市西區松島町一の四八）

京大獨法科を卒業、辯護士、大阪市會議員當選二回、代議士當選三回、翼贊會政策局參與、大日本興亞同盟理事、香川縣出身、五十一歲

川上胤三氏（大阪市西區本田三番丁二三）

大阪府出身、川上回漕店經營、日支運輸社長、國產研磨材料取締役等、大阪商工會議所議員當選四回、同所交通部長、大阪實業組合聯合會理事、大阪稅關聯合會副會長、五十六歲

一松定吉氏（大阪市西區江戸堀北通二の二四）

明治法律學校卒業、大審院檢事、厚生政務次官、代議士當選六回、萬國議員同盟會副議長、辯護士、大分縣出身、六十八歲

第二區

山本芳治氏（大阪市浪速區難波新町一一五七）

東大法科卒業、司法官試補、厚生參與官、大阪市會議員當選二回、代議士當選五回、辯護士大阪府出身、六十二歲

田中藤作氏（大阪市南區高津八番丁一〇）

大阪府出身、關大法科卒業、大阪市會議員當選二回、大阪府會議員當選三回、府會副議長、翼贊會府支部參與、大阪軍法會議辯護士會評議員、三和信用組合理事長其他會社重役、辯護士四十五歲

紫安新九郎氏（大阪市東成區勝山通五の五八四二）

兵庫縣出身、東京專門學校政治科卒業、新聞記者、大阪市商工課長、大阪市南區長、代議士當選十回、大藏省副參政官、拓務政務次官、會社員、七十歲

第三區

池崎忠孝氏（大阪市東區常盤町一の一）

東大法學部卒業、岡山縣出身、代議士當選三回、教科書、史蹟名勝天然記念物兩調査會委員文部參與官、翼贊會本部參與、赤木桁平の筆名で知られ、「日米戰はゞ」の著者として名高い。著述業、五十二歲

高梨乙松氏（大阪市北區中野町三の一三）

關大法科卒業、鳥取縣出身、軍法會議指定辯護士、國防保安法、治安維持法による指定辯護士、調停委員、辯護士、四十五歲

上田孝吉氏（大阪市北區曾根崎上一の三二）

東大獨法科卒業、石川縣出身、大阪市會議員當選四回、市會副議長、代議士當選五回、遞信參與官、翼贊會中央協力會議員、同大阪市支部顧問、日發他國策營團設立委員等、辯護士、五十七歲

山野平一氏（大阪市北區都島本通一の三〇）

八尾中學卒業、大阪府出身、地家主、大阪市會議員當選四回、同市會副議長二回、警防協會常議員、翼贊會支部常務委員、會社重役、五十六歲

第四區

菅野和太郎氏（西宮市今津網引町五六）

京大經濟部卒業、愛媛縣出身、文部省在外研究員として歐洲に留學、彦根高商、大阪商大の教授、大阪市教育部長、同企劃部長、翼贊會府支部參與、經濟學博士、四十八歲

大川光三氏（大阪市東成區大今里町七〇三の六）

關大經濟科卒業、大阪府出身、府會議員當選四回、府參事會員二回、府會副議長、翼贊會府支部協力會議員、司法保護委員等、辯護士、四十四歲

吉川吉郎兵衛氏（大阪市西成區津守町六一八）

大阪府出身、大阪市會議員、同府會議員各一回當選、元大阪府西成郡津守村長、代議士當選八回、陸軍參與官、戊信用組合長其他會社重役、七十三歲

西尾末廣氏（大阪市住吉區墨江中一の六二）

香川縣出身、代議士當選五回、勞働運動に從事三十年、國際勞働會議勞働側代表隨員として二回渡歐、大正十五年に社會民衆黨結成、病院經營、五十二歲

第五區

勝田永吉氏（大阪市三島郡富田町二九）

東大獨法科卒業、大阪府出身、代議士當選六回、內務參與官、內務政務次官、翼贊會市支部參與、大阪辯護士會副會長、日本庭球協會長、東洋製纜、東洋機械等の重役、辯護士、五十五歲

笹川貫一氏（豐中市新免八五三）

大阪府出身、昭和六年國粹大衆黨を結成し其總裁となり同七年國粹義勇隊長に就任、愛國運動に從事、航空事業の發展を強調、獨伊兩國、佛印等へ飛行訪問す。青幣崇禮會名譽理事長就任、四十四歲

杉山元治郎氏（布施市足代二の三七）

大阪府立農學校、東北學院神學部卒業、大阪府立身、全國農民組合長、厚生省保險院專門委員、農業報國聯盟本部評議員、全國古物商組合聯合會顧問、代議士當選四回、齒科醫、五十八歲

大倉三郎氏（布施市高井田一四三二）

大阪府出身、府會議員當選一回、布施市會議員當選二回、同市會議長當選二回、翼贊會府支部協力會議員、尼崎製鋼重役等、四十六歲

第六區

河盛安之介氏（堺市市之町西四丁三）

茨木縣出身、東京高商卒業、堺市會議員當選三回、堺市會議長二回、堺市長三回當選、堺商工會議所副會頭當選二回、翼贊會堺支部長、河又醬油社長、堺興業信用組合長、其他會社重役、五十七歲

松田竹千代氏（岸和田市野田町九五）

岸和田中學中退、ニューヨーク大學卒業、大阪府出身、代議士當選五回、有隣園主幹、海軍政務次官、萬國議員同盟會議に參列、五十五歲

井阪豊光氏（岸和田小松里九八八の一）

京大獨法科卒業、大阪府出身、代議士當選七回、鐵道會議々員、外務政務次官、岸和田市長翼贊會調査委員、神社制度、醫藥制度兩調査委員等、辯護士、六十二歲

翼協府支部

各種統計表

當選者の選擧費用

選擧區	選擧費用		當選者	事務長
	法定額	精算額		
第一區	一三、三二八（單位圓）	六、七四二・四九	田万清臣	棒繁夫
		九、五七〇・七四	川上嵐三	川上嵐三
		一〇、三五三・〇六	一松定吉	一松定吉

選擧區	選擧費用		當選者	事務長
	法定額	精算額		
第二區	八、三五〇	六、六六二・三〇	山本芳治	濱崎信三
		六、八六六・九七	田中藤作	田中藤作
		七、三五一・四六	紫安新九郎	栗井光吉
第三區	一〇、四二一	八、二五〇・一八	池崎忠孝	三木岡一
		八、六七〇・四四	高梨乙松	高梨乙松
		八、七四七・二六	上田孝吉	志水卓男
		九、〇八八・四八	山野平一	古野周藏
第四區	二八、八九四	二〇、八二五・八五	菅野和太郎	橋尙藏
		二三、五二一・六三	大川光三	大川光三
		二〇、七二四・三一	吉川吉郎兵衛	金野太三郎
		一〇、〇四八・四五	西尾末廣	西尾末廣
第五區	一五、六三二	一三、四一〇・一六	勝田永吉	長尾德太郎
		一三、九一七・四七	雀川良一	雀川良一
		六、六四〇・九五	杉山元治郎	石原信二

正誤表

頁數	行	誤	正
序	一行目	設立	確立
序	八行目	多々	幾多
終	三行目	小冊	小冊子
六	二行目	一冩	一冩たる
七	十行目	水嶺	分水嶺
八	七行目	段々と	沁々と
二八	式辭一行目	大阪支部	大阪府支部
四一	二行目	箇々ノ	箇々に
四二	五行目	其時に	其時々
四二	十一行目	御勞力	御協力
五八	三行目	前府會議長	元府會副議長

各區有權者、棄權、無効、有効票數

區六第	區		
二、六〇	井松河	五、二五四・八七	九、〇三〇・四三
	田盛倉		
	阪竹安		
	豐千之		
	光代介		
	大		二、一〇七・五〇
	三		
	郎		
	南松辻		
	田本		
	竹海		
	太千正		
	郎代七		
	三		

(人三)區一第	(人三)區二第	及選舉定員區	有當權日者現在數	棄權者數	無効	投有票數効	投票區	開票區
大港西	浪天南	郡	三四、二九四	六、五〇	一六三	一七、五六二	四	一
正	玉寺	市	七、六九二	三、二五	六二七	三、九五九	三	一
區區區	區區區	區	三二、四七三	一〇、九七五	三〇三	二二、二九五	七	一
			三〇、二四六	四、九七	三五六	一五、〇三二	三	一
			三五、四七九	六、〇〇二	三五六	一九、三二九	二	一
			三六、六五三	一〇、〇〇八	三九八	二三、四六六	四	一

(人四)區三第							
此北東	區區區	三四、二七四	四四九	一三、一三五	一〇、三四一	一	一
花		五四、二四〇	五四	一〇三、一三	五四、〇三五	二	一
		五四、六七	四四九	一三、一六六	五四、六四八	二	一
西住旭東東	區區區區區	一四〇、八四	六七	一四三、一一	一四、八四〇	一	一
淀吉		五六、四四五	六六	一四六、一一	一四、八四〇	二	一
成川		六一、六六	七四	一四〇、〇一	一四、八四〇	二	一
		六一、六六	〇五	一四〇、〇一	一四、八四〇	二	一
		一〇一、八六	六六	一四〇、〇一	一四、八四〇	二	一
區區區		五七、四五	四四	一四三、一一	一四、八四〇	一	一

區五第							
三布吹池豐	區區區區區	六六、六一	〇四	一五五、〇一	一四、八四〇	一	一
島施田田中		一四、六五	六	一五三、一一	一四、八四〇	一	一
郡市市市市		一四、六五	四四	一五〇、一一	一四、八四〇	一	一
		一四、六五	一四	一五〇、一一	一四、八四〇	一	一
		一四、六五	三四	一五〇、一一	一四、八四〇	一	一

選舉區	候補者名	會場數	公營	非公營	計	聽衆人員數	聽衆平均數	備考
一田松定吉	万浦臣	三四	一	六	七	一、四〇〇	二〇〇	注一

合候補者の演説會、聽衆人員數

(三)區六第						(四)					
泉南市	一三、七六八	一三、〇〇〇	一三、〇一〇	一	一	南河内郡	一三、九六四	一三、〇〇〇	一三、〇一〇	一	一
泉北郡	四、六〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一	中河内郡	四、六〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一
泉大津市	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	北河内郡	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
岸和田市	九、二〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一	一	豊能郡	九、二〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一	一
堺市	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	林谷一松太郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
東池上一郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	菊川一太郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
吉倉正之助	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	伊藤三郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
遠田常太郎	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一	井上良一	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一
田中藤作	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	紫安新九郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
井本芳治	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一	山本芳治	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一
上池田孝吉	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一	内藤岡吉	四、三五六	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一
藤崎志郎	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	本田孝一	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
藤田正一	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	重本藏	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一
内藤重吉	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一	塚本藏	三、六八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一	一

第三區	山野平一	二九	一八	四七	五、一四一	一〇七	
	吉津度	三六	二	三八	一、六八九	四四	
	高梨乙松	三五	一五	五〇	六、三三三	一三六	
	廣江源三郎	四六	四	五〇	三、二八〇	六六	注六中二
	金正米吉	二六	七	三三	二、三五六	七五	注一
第四區	吉川吉郎兵衛	六一	一九	八〇	六、〇六七	七六	注一
	西尾末廣	三五	一九	七二	九、七六七	一三六	注一七中一
	中山福藏	六三	三四	九六	七、九四三	八五	注一五中二
	菅野和太郎	三九	二六	六五	七、一〇四	一三	注一
	大川光三	五九	一三	八一	七、八三三	九六	注一
	川村保太郎	七九	一二	一〇〇	五、二八六	三五	注九
	江崎利一	四七	一一	五八	四、三二八	五八	注一
	本田彌一郎	四五	八	三五	二、六五九	五〇	
	山根儉三	六三	三〇	九三	九、二七四	一〇〇	注三三中一
	大源正行	四四	二七	七一	四、七〇五	六六	注一七中一
	大橋治房	四〇	一七	五七	四、〇八八	七二	
	毛谷村三次郎	一四	六	二〇	七五	三八	注三
	李善洪	五九	一七	七六	四六、七二	六一	注九中二
	辛泰嶽	八一	一六	九七	一〇、二三三	一〇五	注八
	奥田泰治	三		三	四四	一五	注一
	吉松正勝	五九	一二	七一	五、五五五	七八	注三三中三
	遠藤清	六一	一四	七五	四、三二七	六二	注五
第五區	勝田永吉	六九	一六	八五	六、二四八	七五	
	杉山元治郎	七四	五	七九	五、〇五四	六五	
	曾和義式	六八	一五	八四	三、六六四	四四	注二
	田中萬逸	六九	一〇	七九	二、六五一	三三	注五中一
	大倉三郎	五一	一二	七二	五、二六三	七三	
	篠川良一	八八	一二	九九	一七、六九一	一七八	注一四中一
	寺島宗一郎	二六	六	三五	一、六二三	四六	注四
	鈴木愛之助	六三	三三	八五	二、九四七	三四	注七

區六第									
井阪豊光	三、三三	三、六三	三、六三	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
田竹千代	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
阿部安之介	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
中尾武彦	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
邊納	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
内貴大郎	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
期田	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六
注									
一									

註、（注）は注意、（中）は中止

郡、市、區別得票數表

選定員數	候補者	田方清臣	川上嵐三	一松定吉	林谷貫吉	伊藤松太郎	菊池東一郎	東正廉	吉倉己之助
(3) 區一第	西區	三、四四〇	三、五六〇	四、〇六〇	一、四五八	一、四四四	三六八	三三二	七〇
	港區	三、六五九	三、六六八	九、四五九	二、四五五	一、〇七〇	一、三三五	九三二	三四四
	大正區	七、一〇四	四、七四四	四、三五九	三、九五九	五二一	四、〇四四	一、三四四	四二

山本芳治	田中藤作	紫安新九郎	井上良次	遠田常太郎

選定員數	候補者	池崎忠孝	高梨乙松	上田孝吉	山野本一	塚本貫藏	内藏正剛	廣江源吉郎	吉兼度	金正米吉
(4) 區三第	東區	九、三六六	二、五五〇	三、四四一	一、一七七	一、四四三	三、九三五	一、四一〇	四六一	三〇
	北區	七、四〇四	九、八四	七、一四九	八、一六八	二、四三三	二、三五五	一、四三九	四五四	五八
	此花區	七、三六八	五、八一五	六、三三四	二、〇三五	七、〇八一	一、九三六	一、六三三	一、六八九	九四

大川光三	西尾末廣	山江根崎徹利一	大橋治房	川林彦太郎	李洪	大吉源正行藏	谷口三末郎
(三、一五六、九八)	(三、八六七、五六)	(三、三三五、九五)	(一、四五八、七二)	(一、四四三、九一)	(五五四、七五)	(三三一、二一〇)	(一、八四〇、一〇)
(三、三三三、五五)	(三、二六〇、五六)	(六、三五五、九五)	(一、九五四、八六)	(一、三五五、九三)	(一、一〇一、五四)	(三五六、三六)	(六三六、八六)
(三、一〇三、八八)	(三、一三六、〇五)	(三、三四〇、八五)	(一、八六〇、八二)	(三、三七九、三四)	(九五四、一〇)	(一、三四九、一一)	(三、三九九、三四)
(六、四三二、七五)	(三、九三九、〇五)	(三、三五〇、三五)	(三、九六一、七五)	(一、〇五五、三九)	(九五四、一〇)	(一、〇五〇、一二)	(一、六九八、一〇)

(3) 區		第六					
泉南郡	堺市	二、八三八	一、〇六二	九三四	八三六	五九七	一三一
泉北郡	岸和田市	二四八	三、一三一	八、四六二	一三五	二、一二一	九二
	泉大津市	二、九五三	七七六	四四〇	五〇三	六四	二、六八六
	貝塚市	二、九九一	四、一三二	一一、二五八	九、九一六	五三一	一、一八六
泉南郡	泉佐野市	七〇三	一五、〇三一	六、七五九	一九九	一、二二四	一五七

(4) 區		第五					
	豐中市	一、八八五	三、二〇五	八一四	三三一	四四九	一二九
	池田市	二、二七五	二、二九六	六七五	一一〇	三三七	二一
	吹田市	五、一七六	三、五八七	一、五三二	三五七	二四〇	三三五
	布施市	一、五七六	四、四一八	四、三三九	九、五〇八	一七五	四三六
	三島郡	一一、六三七	五、三一八	一、七三六	一六九	一五六	一四六
	豐能郡	三、七五四	四、三三二	一、二七六	三二一	三一〇	五四
	北河內郡	六、二九二	四、五五〇	七、三五四	二、一三二	九九八	四三九
	中河內郡	四、〇六三	六、四五七	五、九六二	七、二七〇	一、五八一	五、八二一
	南河內郡	三六一	二、〇一〇	一、七八六	六七六	一三、九三一	四七〇
		河盛安之介	松田竹千代	井阪豐光	中尾武彥	田邊納	堀內寅太郎

(4) 區		第五					
西成區	住吉區	二一、二四九	九、一二〇	三、〇九九	二、九二八	七一九	五五一
		五、六九七	八、一三一	三、六五五	一、三三五	八〇四	二〇六
		四、四六三	一〇、八四八	一、二三五	一、二九九	一、四四四	四八五
		二、六一二	五、三一七	一、六八八	六三五	一、四三五	五一
	勝田永吉	三、一七六	三、二〇五	八一四	一四九	三三一	四四九
	篠川良一	五、一七六	三、五八七	一、五三二	三五七	二四〇	三三五
	杉山元治郎	一、五七六	四、四一八	四、三三九	九、五〇八	一七五	四三六
	大倉三郎	一一、六三七	五、三一八	一、七三六	一六九	一五六	一四六
	曾和義式	三、七五四	四、三三二	一、二七六	三二一	三一〇	五四
	田中萬逸	四四九	三三八	一、四二七	九九八	一、五八一	四七〇
	鈴木愛之助	一二九	一二三	四三九	一五〇	五八二一	四五
	寺島宗一郎	三四	二一	六、六六九	一〇九	二〇九	一五

翼贊選擧の歌

大政翼贊會大阪府支部
大阪府翼贊壯年團

撰定　宮田和一郎作歌
　　永井巴作曲

一、萬機公議に決せよと
聖の帝の賜ひてし
國是を示す五筒條の
大御誓のかしこさよ

二、清く正しく一票は
銃後一億臣民が
大御政を翼贊の
誠現はす義務なるぞ

三、劍を執りて大丈夫が
かへりみなくて大君の
醜の御楯と前線に
武勳は壓す六大洲

四、國を擧げて總力戰
前線銃後一丸の
熱意に築け大東亞
共榮圏の礎を

昭和十七年十一月十五日印刷
昭和十七年十一月二十日發行

非賣品

編輯兼發行人　堺市宿屋町二〇　楠野泰夫
印刷人　大阪市北區川崎町六　西井幾藏
印刷所　大阪市北區川崎町七　ナニワ印刷所
電話堀川㉟（一三九三番／六九三二番）